

日 時 平成26年12月4日(木) 午前10時 開 議

出席議員 (16人)

1番 村上啓二	2番 工藤和行
3番 黒石ナナ子	4番 今井敬
5番 工藤禎子	6番 佐々木隆
7番 後藤秀憲	8番 大久保朝泰
9番 大溝雅昭	10番 工藤俊広
11番 工藤和子	12番 山田鉦一
13番 福士幸雄	14番 北山一衛
15番 中田博文	16番 村上隆昭

欠席議員 (なし)

出席要求による出席者職氏名

市 長 高 樋 憲	副 市 長 玉 田 芙佐男
総 務 部 長 成 田 耕 作	企画財政部長 後 藤 善 弘
健康福祉部長兼 福祉事務所長 村 元 英 美	農林商工部長兼 バイオ技術センター所長 永 田 幸 男
建 設 部 長 工 藤 伸太郎	総 務 課 長 阿 保 正 一
人 事 課 長 沖 野 恵美子	管 財 課 長 藤 田 克 文
企 画 課 長 千 葉 毅	健康推進課長 木 村 斉 吾
高齢介護課長兼 地域包括支援センター所長 山 口 幸 誠	農 林 課 長 兼 バイオ技術センター次長 玉 田 純 一
商工観光課長 幾 田 良 一	土 木 課 長 鳴 海 真 一
都市建築課長 真 土 亨	選挙管理委員会 委 員 会 長 乘 田 兼 雄
監 査 委 員 廣 瀬 左喜男	教 育 委 員 会 長 委 員 会 長 村 上 良 子
教 育 長 阿 保 淳 士	教 育 部 長 兼 市民文化会館長 奈良岡 和 保
教育委員会理事兼 指導課長兼教育研究所長 宮 崎 晃 一	学 校 教 育 課 長 山 谷 博 文
黒石病院 事業管理者 柿 崎 武 光	黒 石 病 院 事 務 局 長 沖 野 俊 一

会議に付した事件の題目及び議事日程

平成26年第4回黒石市議会定例会議事日程 第2号

平成26年12月4日(木) 午前10時 開 議

第1 会議録署名議員の指名

第2 市政に対する一般質問

出席した事務局職員職氏名

事 務 局 長	長谷川 直 伸
次	長 三 上 亮 介
次長補佐兼議事係長	佐々木 聖 人
主 事	櫛 引 亮 兵

会議の顛末

午前10時02分 開 議

◎議長(村上啓二) ただいまから、本日の会議を開きます。

本日の議事は、議事日程第2号をもって進めます。

◎議長(村上啓二) 日程第1 会議録署名議員の指名を行います。

7番後藤秀憲議員、15番中田博文議員を指名いたします。

◎議長(村上啓二) 日程第2 市政に対する一般質問を行います。

順次質問を許します。

3番黒石ナナ子議員の登壇を求めます。3番黒石ナナ子議員。

登 壇

◎3番(黒石ナナ子) 皆様おはようございます。自民・公明クラブの黒石ナナ子でございます。

平成26年第4回黒石市議会定例会におかれまして、このたびもまたこのように一般質問をさせていただく機会を得て、光栄に存じております。理事者側の誠意ある御答弁をどうぞよろしくお願いいたします。

冒頭、早いもので12月、何かとせわしい師走を迎えました。衆議院選挙と、このように定例会議が重なり、また、国内外におかれましては数多くのニュースが話題となり、何より世界異常気象と温暖化による甚大な被害がテレビ・新聞等から目に入り、これから迎える冬将軍に備え、山間部でお過ごしの方におかれまして、雪、雪に明け暮れる自然の厳しさが、本年は幾らかでも平穏であることを祈りながらも、気掛かりな今日このごろでございますが、昨夜、本日と雪が降り積もっている津軽でございます。また、この冬の厳しさがあってこそ、うららか

な春の陽が殊のほか雪国の私達に与えられた喜びであると思うところでございます。

本年も春から秋にかけ、黒石市の歴史的な祭りやイベントも、何事もなく終えられたことに感謝するものでございます。黒石の秋祭りは、市民参加型の文化祭から始まり、中野山のもみじ狩りで終わります。誰もが認める青森県を代表する観光スポットのもみじ山、本年は1週間ほど早い色づきで、大勢の観光客がにぎわいを見せてくれました。

報告として、11月2日、台湾駐日代表シン・シ・ジュン氏、御夫人のリン・ソクエン、通訳主席オウズ・イホウ氏がもみじ山へ御来山くださいました。もちろん、永川市議会御一行10名と、市担当課職員の方々とともに、もみじ狩りを楽しんでくださいました。このように中野もみじ山は黒石の迎賓館の役目を果たしているかのように感じたところです。

旅とは、遠くはるかなものに対する人間のあこがれの本能の一つかも知れません。生まれてこの方、まだ一度も行ったことのない所を旅をするということは、本当に大きな魅力があります。

10月30日から11月1日まで大韓民国永川市姉妹都市締結30周年記念式典に、永川市副市長キム・ジョンズ氏、議長グオン・ホラク氏、ほか10名が御訪問、初めて見るこの黒石の風景、人々のおもてなし、食事など、どのような印象であったでしょうか。

それでは質問に入らせていただきます。

姉妹都市永川市、宮古市の今後について。

大韓民国永川市との交流はことしめでたく姉妹都市締結30周年を迎え、先ごろ、記念式典が開催されたことは、まことに喜ばしく、出席できましたことを光栄に思っております。さらには、岩手県宮古市との交流はもうすぐ50周年を控え、市長の姉妹都市に対する考え方について質問させていただきます。

交流の継続について。

姉妹都市交流を今後も継続していくことと思いますが、交流継続のための手立てとしてどのようなことを考えておられるのかお聞きいたします。

交流の継続には、青少年の相互派遣交流が最も効果的であると考えますが、市長のお考えはいかがでしょうか。また、年表を拝見すると作品の相互展示会も開催されたようですが、今後もそのような計画はあるのでしょうか。また、民間団体のスポーツ交流も行われていましたが、今後の見通しはどのように考えておられるのでしょうか。以前は、職員相互派遣交流を実施しておられたようですが、今後はどのように考えておられるのか。例えば、交流経験のある職員相互に姉妹都市交流大使を任命し、定期的に情報交換を行い、随時市報に掲載し、市民の方々に姉妹都市の状況をお知らせするなどのやり方も考えられますが、どのようにお考えでしょうか。お考えがあればお知らせください。

姉妹都市交流の成果・メリットについて。

姉妹都市交流の成果をどのように評価しておられるのか。具体的な成果はあるのかどうかお知らせください。姉妹都市を市民に幅広く理解させるためのお考えはあるのかどうか。姉妹都市交流のメリットをどのように捉えておられるのでしょうか。市長はまた、どのタイミングで永川市を訪問するのか、お知らせください。

永川市は積極的に企業誘致を展開しているように聞いておりますが、永川市と連携し経済交流などは考えているのかどうかお知らせください。平成18年、当時の黒石市長、議長を初めとした経済ミッション団10人を編成し、経済懇談会を永川市で開催した歴史がございますが、この経済交流を生かすことはできるのでしょうか、お聞きいたします。

宮古市について。

もうすぐ、岩手県宮古市との姉妹都市交流が50周年を迎えますが、記念行事や相互交流をどのように考えているのかお知らせください。現在、震災以後積極的に宮古支援を続けておりますが、どの時期まで続けていくのかお知らせください。また、新たな展開や交流の計画はあるのかどうかもお知らせください。例えば、黒石市内に宮古市の物産販売所を空き店舗などを利用して常設で設置することなどです。第24回黒石りんごまつりには、山本市長さんを初め民謡歌手の小田代直子さん、「山口太鼓の会」がステージを盛り上げてくださいました。黒石市民もたくさんの元気をいただき感謝をしているところでございます。

中野もみじ山について。

中野もみじ山の整備と活性化について。

もみじ山には、毎年多くの観光客が訪れ夏から秋のシーズンにかけて県内はもとより、県外・海外からのお客様も多く訪れるようになっております。また、ライトアップによる集客効果もあり、今では通年で観光客をもてなすことのできる、市の観光スポットとして脚光を浴びているところでございます。このように中野もみじ山には多くの観光客がおいでになっておりますが、ここ3年間のもみじ山への入り数はどれくらいでしょうか。このような人数ですとトイレ不足が課題となっていると考えます。今後、トイレを新たに整備する考えはあるかどうかお知らせください。また、整備の時期についてもお考えがあればお知らせください。駐車場の不足という声も聞かれますが、新たな整備の考えがあるのかどうかお知らせください。また、観楓台にあがる神社本堂から左手の階段に手すりがあればとのお声がございます。急な階段であり、多くの高齢者の方々ももみじ狩りを楽しんでおられますので、安心安全な観光地を提供するためにも、手すりの設置のお考えはいかがなものでしょうか。

また、もみじの木には、それぞれ名前があります。ネームプレートをつけていただけたら、もっともみじの種類を知ることができ、楽しむことができると思いますが、お考えはいかがで

しょうか。また、不動滝を望む観光スポット、川床のある場所ですが、柵の塗装、もみじ山の散策コースも含めまして、整備のお考えをお知らせください。川床の利用状況と、もみじ山への警備人数は十分でありましたでしょうか、お知らせください。本年初の試みである、もみじの中でのよさこいソーランは、観光客への突然のパフォーマンスで人気があったようですが、来年はどのようにお考えでしょうか、お知らせください。

中野もみじ山さらなる活性化について。

遠い昔、津軽三不動という素朴な信仰を中心として栄えた中野不動尊は、現在も巡礼者の手によって守り続けられております。1400年という悠久の時の流れに、もみじ山の自然とともに歴史を秘め流れ落ちる不動滝、蛇行して流れ末をかすめながら流れ行く中野川。「ここはすべてが魅力的である」と、今から140年前、イギリス女性旅行家イザベラ・バードが絶賛し、また、日本奥地紀行で黒石の地名を世界に紹介した外国人第一人者、この本はイギリス・アメリカで大ベストセラーとなりました。また、およそ380年前、京都の公家の方で、花山院忠長卿が猪熊事件で北海道松前に流刑となりましたが、血筋をたどって津軽黒石中野不動院を訪れ、中野の美しい宮、滝、川、川に住む魚を詠い、しばし身を委ねた所でございます。菅江真澄の遊覧記の中に、雪の中野もみじ山を歩いてみたいとの文章も残されております。このように中野もみじ山は、遠い昔から山状の修験道場が置かれ、文人、墨客が筆を走らせ、自然の中での修行、また、自然の中に身を置き文学を楽しんだ所でございます。このように先人たちの足跡をたどる旅、追体験する旅を活性化につなげ交流を深めることが現代の旅かと思えます。

このたび、もみじ山にアジアからの留学生がもみじ狩りに訪れ、お国をお聞きしたところ、台湾・中国・韓国・マレーシア・タイ・ベトナムと、この秋はなかなか国際的な若い人たちが盛り上がり、観光りんご園にも行かれたようです。中野もみじ山は二度もJRポスターに採用され、海外までその名が紹介されました。黒石が海外に誇る観光スポットになりましたことは、私たち市民が誇りを持ってお客様を迎える気持ちが大事かと思えます。

もみじ山境内には41基の川柳の碑があり、もみじ山の一角は川柳の社とも呼ばれております。また、石段を下って中腹左側にりんご試験場、現在のりんご研究所誘致で知られた、旧山形村村長を務め、また、国会議員でもあった竹内清明の胸像がありますが、何かしら無言で雄弁に中野の歴史を物語っています。

もみじ山には樹齢200年以上のもみじの木5本、モミの木2本、500年、600年、700年の杉の巨木など、市民の森と呼ばれる以前からこのように木々の樹齢からも歴史を知ることができるのでございます。自然の文化的遺産要素から、このもみじ山のさらなる活性化に向け、これからのように進めていこうとしているのか、お考えがあればお知らせください。

本年、青森港へ寄港した豪華客船ダイヤモンド・プリンセスを今後、津軽広域圏である弘前・

田舎館・平川と連携し、もみじ山・こみせ通り・松の湯交流館・澤成園とのコースを確立し、来年に向けて観光エージェントとタイアップして、さらなる黒石の魅力ある観光黒石を周知させていただくためには、どのような流れを持って活性化を進めたら良いのかもお知らせください。

以上で、壇上からの質問を終わります。誠意ある御答弁を願ひまして、ありがとうございます。

(拍手)

降壇

◎議長（村上啓二） 理事者の答弁を求めます。市長。

登壇

◎市長（高樋憲） 黒石ナナ子議員にお答えいたします。私からは、姉妹都市永川市・宮古市の今後についての中で、永川市とこれまでの実績のあるスポーツ交流等について、永川市と職員の相互派遣交流について、永川市との経済交流について、また、私がいつ永川市に訪問するのか、そして宮古市との姉妹都市締結50周年に向けての今後について、宮古市への復興支援の今後について、宮古市との今後の交流について答弁させていただきます。

まず、永川市との交流についてでありますけれども、ことしは姉妹都市締結30周年を迎え、去る10月30日に永川市のキム・ジョンズ副市長一行を当市にお招きし、記念祝賀会を開催したところであります。その際、議員の皆様方にも大変お世話になり、この場を借りて改めて御礼を申し上げます。

さて、永川市との交流において、過去に実施してきたスポーツ交流や学芸作品の交換展示事業は、いずれも国際姉妹都市交流に対する市民の理解を深めることや、次代を担う若者の人材育成という観点から実施してきたものであり、ここ数年実施している高校生のホームステイ事業は、その考え方を包含し発展させた事業であると認識いたしております。したがって、当面は、ホームステイの相互派遣を軸に交流事業を展開していきたいと考えております。

市職員の派遣交流につきましては、平成11年度から平成20年度までを永川市から5人、黒石市から3人を相互派遣いたしました。今後の実施につきましては、永川市からの職員を受け入れることは可能であると思われましても、黒石市の職員を派遣することにつきましては、非常に限られた人員で行政運営を行っていることから、難しいと思っております。なお、過去におきまして職員の派遣・受け入れを行った際には、その内容を市の広報紙に掲載したり新聞社に情報提供するなど、市民への周知に努めております。

永川市との経済交流につきましては、人的な交流のみならず、例えば両市の特産物を相互に販売するなど、経済的にお互いの利益につながるような交流も必要であると認識いたしております。今後は、どのような方法が効果的か調査・研究したいと考えております。

私の永川市訪問につきましては、議員皆様方の理解を得ながら、早い機会に訪問できればというふうに考えております。

次に、宮古市との交流についてであります。ことしは黒石市制施行60周年記念式典や黒石りんごまつりに宮古市の山本市長さんにおいでいただいたほか、日本有数の創作太鼓グループであります「山口太鼓の会」の皆様方にも2回にわたり太鼓の演奏を披露していただくなど、活発な交流が行われてるるところであります。平成28年度には姉妹都市締結50周年を迎えるわけですが、現在、宮古市と記念事業に関する協議を進めております。具体的な交流事業については平成27年度において計画されることとなりますが、これまで30周年、40周年の際に行ってきた記念事業を踏まえ、今後も宮古市と十分協議を重ね、新たな交流促進を図る考えであります。

宮古市に対する復興支援についてでありますけれども、現在は心の復興支援が何よりも重要であるという観点から、黒石市社会福祉協議会、黒石市ボランティア連絡協議会と連携し、仮設住宅などで宮古市市民と触れ合うサロン活動を中心に行っております。これら地道な活動を復興の進歩に応じ、必要性を見極め、きめ細かく行うことは、黒石市が姉妹都市だからこその支援であり、当面支援が必要とされる人がいる限り継続したいと考えております。宮古市との姉妹都市交流における新たな展開については、平成28年度を迎える姉妹都市締結50周年を一つの契機といたしまして、記念事業を両市で企画する中、新たな展開が生まれてくるものと期待いたしております。

私からは以上であります。その他については関係部長から答弁を行わせてます。

降壇

◎議長（村上啓二） 企画財政部長。

◎企画財政部長（後藤善弘） 私からは、姉妹都市関係の交流の成果・メリットについてお答えをいたします。

まず、永川市との交流の成果・メリットについてであります。平成7年から行われております初心者を対象としました韓国語講座は、永川市との交流促進や韓国文化への理解を目的に行っておりまして、今年度で20回目を迎え、修了者も300人を超えております。講座への参加がきっかけとなりまして、修了者によって2つの韓国語サークルが発足しており、また、講座の修了者の中では、先日の永川市副市長御一行が来黒された際に通訳をお願いした方もいるなど、成果が上がっております。

また、平成19年度から行っております高校生の相互派遣によるホームステイ事業におきましては、派遣した高校生の中で、その後の韓国語スピーチコンテストで全国優勝した生徒がいるほか、受け入れを行った市民の中には、その後も交流を続け永川市を自ら訪問されたという家

族の方もいらっしゃいます。そのように効果が波及しておりますことも非常に喜ばしいことと
ございます。

次に、宮古市との交流の成果・メリットについてであります。これまでの50年近い交流の
実績によりまして、さまざまな分野に交流の輪が広がっております。まず、昭和61年から20
年間

にわたり、当市の山形地区と宮古市重茂地区の児童延べ約700人が参加しました「海の子山
の子体験交流学習会」は、自分の地域では体験できない自然・文化・産業の体験や学習の機会を
得ることで、子供たちの人間性、社会性の育成に大きく寄与したものであると思っております。

また、災害時に対する支援という点でございます。昭和50年の水害に宮古市から見舞金
をいただいたのを初め、平成3年の台風19号の際には、見舞金のほかに落下したリンゴを宮古
市民に率先して御購入いただくなど、黒石市が災害に遭ったときには姉妹都市ならではの心温
まる御支援を頂戴しております。

姉妹締結の他団体への波及という点では、黒石ライオンズクラブと宮古岩手ライオンズクラ
ブ、そして黒石青年会議所と陸中宮古青年会議所、さらには黒石商業高校と宮古商業高校など
姉妹締結に結びついてございます。

そのほか、物産につきましては、黒石市と宮古市の民間団体が初めて共同で開発いたしまし
た「宮黒サイダー」がことしの7月に販売されるなど、経済面での効果も出てございます。

また、ことしの10月には新たにスポーツ交流が始まったほか、両市の祭りやイベントに毎年
相互に参加するなど、行政はもとより各種団体や市民同士への交流が広がっており、これらの
交流によりまして築かれた信頼・絆は、既に両市民の大きな財産となっていると考えてござい
ます。以上です。

◎議長（村上啓二） 農林商工部長。

◎農林商工部長兼バイオ技術センター所長（永田幸男） 私からは、姉妹都市交流関係の宮古市
との交流で物産の展示即売の店舗を開設できないかという御質問と、中野もみじ山の整備と活
性化に関する御質問の全般についてお答えいたします。

まず、姉妹都市交流についての店舗の件につきましては、宮古市の物産は黒石こみせまつり
や旧正マッコ市、あるいは黒石りんごまつりで販売されており、大変盛況で売り上げも伸びて
おります。常設展示販売につきましては、スポット販売と異なりまして採算性を検討する必要
があることから、実施の是非については事業者の発掘等も含めまして、まずは可能性の調査検
討が必要かと考えます。

姉妹都市交流の展開として民間事業者間での経済交流により活性化が図られることは推奨す
べきものでありますので、先般両市が生産者と販売者をマッチングし、宮古市の塩と当市のり

ンゴを使った姉妹都市初のコラボ商品、先ほど企画財政部長が答弁したとおり「宮黒サイダー」誕生の実績もあるため、今後もこうした活動も含めまして側面から支援してまいりたいと考えております。

次に、中野もみじ山の関係で、まず1点目として駐車場と老朽箇所等の対策の件についてでございますが、中野もみじ山の紅葉期間中、やすらぎの駐車帯の人員についてですが、基本的には休日にスタッフを張りつけ、駐車場入り口付近から駐車場内の交通整理をお願いしております。人員数については、来場者が集中する10月下旬並びに11月上旬の週末には6人体制で、それ以外の休日につきましては、入り込み状況に応じて4人もしくは5人体制で業務に当たっていただいております。あと、トイレが少ないことや手すりの設置、そのほか老朽箇所等に対する対応につきましては現場の状況を確認し、優先順位等も含めまして、精査した上で改善を検討したいと考えております。

次に、もみじの木のネームプレートの件についてでございますが、これは以前樹木医にお願いして、もみじの種類の特定をし、つけた経緯もございます。この辺につきましては、もう一度こうしたこともできるかどうかも含めまして、内部で調査検討したいと思っております。

次に、中野もみじ山の過去3年間の入り込み数等についてでございますが、まず、いずれもその他のイベントとの調整、あるいはライトアップの機器等の貸し出しとの調整等で、それぞれ年度ごとに会期を変えてございます。したがって、単純比較はできません。まず、平成24年度は夏がですね、12日間で562人。それから秋はですね、8万4,484人。それから平成25年度は、夏が会期26日間として合計4,240名。これは日中夜間含めてです。それから秋がですね、9万8,900人。これは会期が29日間です。平成26年度、今年度は夏場は18日間で合計4,135名。それから秋が25日間で9万2,991人。いずれも実カウント数でございます。こうした形でそれぞれ会期が異なりますので単純比較はできませんが、1日当たりの平均では日中約9,000人、夜間約800人と、ともに昨年に比較してことしは150人ほど上回っております。

次に、中野もみじ山にゆかりのある文人墨客等の活用・紹介の仕方については、素材同士の連携等、今後の研究・検討課題とさせていただきたいと思っております。

あとエージェント、いわゆる豪華客船等のエージェントの誘客についての御質問でございますが、これは先般の議会でもお答えしましたが、相当以前にその旅行ツアーの内容の把握とエージェントとの詰めがないと日程になかなか組み込んでもらえないという困難さもございます。これについては情報の収集をいかに早く掴むかということも含めまして、そのエージェントの動向、あと観光連盟でもこれらについては注目して、各市町村とも連携してこうした活動で観光案内所を設置して対応しておりますので、これらも含めて総合的に検討してまいりたいと思っております。いずれにしても、中野のもみじ山については特に川床が一番好評でございまして、旅

行エージェントからのオファーは今年度も来年度も既に問い合わせが来ておりますので、こうした形で進めたいと思います。

川床でございますが、3カ年いずれも設置数は3床で、これは直接弁当をそこで申し込み、観光協会に委託して受け付けていただいで実施しているわけですが、ちなみに平成24年度ですと納涼床で弁当の売上数がですね、納涼弁当が188個、小嵐山弁当、これは秋ですが、夏と秋を名称変えて実施しております、販売数は203個。25年度は若干減りまして、納涼弁当が59個、小嵐山弁当が48個。今年度の場合、夏は31個、秋は89個となっております。いずれにしても、これは屋外での実施ですので天候に左右されますので、なかなかちょっと面倒なところもありますが、ただしエージェントには大変好評で問い合わせが来ております。

次に、「AOMORI 花嵐桜組」によるよさこい演舞の件でございますが、非常に天候もよくてもみじがちょうどいい時期でありましたので、たくさんの観光客が訪れまして非常に大盛況に終えることができ、その日は期間中で一番の来場者でございます。このよさこい演舞につきましては、効果が非常にあることから来年についても前向きに検討したいと考えております。私からは以上でございます。

◎議長（村上啓二） 答弁漏れありませんか。

（なし）

◎議長（村上啓二） 再質問を許します。3番黒石ナナ子議員。

◎3番（黒石ナナ子） ありがとうございます。市長さんのほうから姉妹都市の件、いろいろと。また、担当のほうからもいろいろと御答弁いただきまして、ありがとうございます。私もわからないことありまして、とても勉強になりました。

永川のほうはわかりました、ありがとうございます。宮古のほうですね、震災後の支援いつまでかということに関して、今現在もこれからも一番大切なのは心の支援ということで、それが一番私も大事であると感じているところでございます。ずっと、本当に長く続けていただけたらと思います。どちらのほうの、永川におかれましては宮古市におかれましては、この黒石にとって非常に絆が深く交流が行われているというのをひしひしと感じたところでございます。ありがとうございました。

それで、サイダーなんですけれども、どうでしょうか浸透しているんでしょうか。あのとき一度だけ味わって、それからちょっと目にしていなくてすけれども。

それと、中野のほうのもみじ山のほうなんですけれども、いろいろとありがとうございます。先ほど私、文学・歴史・巨木などを申し上げましたけれども、そういうのを全部まとめて黒石の観光売り込みにいいのではないかと思う次第でございます。これも早く考えて、地元の方ともタイアップして、警備のほうなんですけれども、祭り期間だけでも地元の人たちを活用

していただければいいなと思っております。

また、ちょっと前後になりましたけど、宮古市民の方で観光大使なんかいらっしゃるようですが、その方何人いらっしゃるのか。そして、その方のプロフィールみたいな、現在までの活動ですね。そしてまた、今後増員する、増やすお考えはあるのかどうかもちょっとお聞きしたいと思います。

中野もみじ山のメインというのは滝とか川とかいろいろあるんですが、観楓台なんですね。この観楓台について、ちょっとこれは提言です。この観楓台、青森県文化調査報告書からちょっと抜き取ったものなんですが、青森県の中世のお城と館という所では、ここの不動館になると思います、観楓台は。中野の不動館、あるいはもみじ館という名前と呼ばれていたと思います。浅瀬石川の支流、中野川の砂岸、北東から張り出した山地尖体部に位置する本郭は東西100メートル、郭の西側は中野川による急な崖であり、ほかの3方は幅10メートル、内外深さ5メートルくらいの堀に囲まれている。本郭の北東に堀を隔てて東西約60メートル、南北30メートルの2の郭がある。四方とも堀が巡っている。天正年間から慶長2年にかけて築地十郎がいたとも言われている。十郎は山形周防長胤とも称し、羽州庄内山形最上義秋の子である。津軽に来て浅瀬石城千徳大和守政氏に仕えたという。なおこの館、南側、中野川沿いに修験道場と言われる中野不動堂がある。このように記されております。これは提言ですので、こういう歴史を生かしてさらなるもみじ山の活性化につなげたらいいなと思います。また、ここで修行したのが身近に見られるのが、黒森山浄仙寺の初代の是空という和尚さんであるともお聞きしております。ぜひこれからも黒石というところ、もうちょっと上を見ると青森県、観光は非常に黒石にとっては大きな産業であるとも思います。このような歴史をお示しした看板なども、これから先お考えになっていただければさらなる活性化につながるとは思います、これは提言でございます。今一度大きな目を向けていただきたいと願うところでございます。ありがとうございました。

◎議長（村上啓二） 農林商工部長。

◎農林商工部長兼バイオ技術センター所長（永田幸男） まずは、訂正とお詫びであります。先ほど私、昨年に比較して日中の1日当たりの平均が9,000人と申しましたが2,900人の誤りでございます。

それと、今の御質問について、まず観光大使のプロフィール等についてでございますが、今は退職されましたが宮古市の職員でございました。もともと社会教育主事の資格を持って教育委員会に在籍し、最終的には役所を辞めた後には、その後も危機管理室にそのまま再任用された方でございます。この方は、津軽石の地域に在住しておりまして、漁協にも加盟しており、一番大きな活動歴では、市内10公民館の地域で荒巻づくりの講習会を実施しましたが、そのと

きの講師として自らサケを手配して来ていただいた方であります。もちろんマラソン・駅伝等にも出場している方で、黒石にはもう何度も訪れ、今回のりんごまつりにもおいでになっております。

次に、観光大使自体は議員も観光大使として御活躍されていたのでよくおわかりだと思いますが、選考基準としてはこうした黒石市にゆかりのあり、無償で積極的にPRしていただける方で対外的な折衝が多い方ということを対象に選考しております。宮古市に観光大使として効果的と認められる方がいる場合は、今後も委嘱する可能性はあり得ると考えております。

あと、宮黒サイダーについてであります。これは輝く黒石りんご市の会で宮古市を応援したいという思いから誕生したサイダーでございます。県内スーパー等、宮古市でも販売されております。また、会のリンゴ販売の際、それからやきそばのまち黒石会の出店の際でも販売し、双方でPRに努めております。以上でございます。

◎議長（村上啓二） 以上で、3番黒石ナナ子議員の一般質問を終わります。

◎議長（村上啓二） 次に、15番中田博文議員の登壇を求めます。15番中田博文議員。

登壇

◎15番（中田博文） 12月定例会に当たり一般質問をさせていただきます。自民・公明クラブの中田博文でございます。

安倍晋三首相は、伝家の宝刀を抜き衆議院の解散を執行したのであります。消費税増税の国民負担増を求めるかわりに議員も身を切るとして実現するはずだった衆議院の定数削減は放置されたままであります。2年前の当時の総理は民主党の野田佳彦であり、野党の自民党総裁は安倍晋三氏でありました。当時の党首会談でのやりとりは消費税を5%から8%にアップすることと、国会議員の定数削減の実施を約束するならば国会を解散すると野田総理は、安倍自民党総裁に詰め寄ったのであります。しかし、自民党も民主党も選挙が終わってしまえばどこ風吹くものやらとすまし顔であり、定数削減には本腰を入れていないと見るのが国民の感想ではないでしょうか。国民に消費税を上げて痛みを強いるのであれば、国会議員の方々も襟を正し痛みを分かち合い定数削減を断行しなければならなかったと思うものであります。国民は怒っているのだと思います。私は自民党員ですが、このようなことが続けば政治の信頼は薄らいでいくのではと危惧するものでございます。

最近スーパーに行った際、タクシーの運転手の方が私を見るなり側に駆け寄り、お客さんの中には黒石も市会議員をもっと減らさなければならぬと力説している方もいるということをお伝えに来たのであります。当市も人口減少は加速をしており、この市民の言い分も間違いではないと思った次第であります。改選の前、4年に1度くらいは議員の定数が妥当かどうかを議

題にすることも必要なのではと思った次第であります。

それでは順次通告に従い質問に入らせていただきます。

最初の質問は、雪対策についてであります。

望むと望まざると、雪国には冬将軍がやって来ます。近年は冬が長く大雪であります。冬来たりなば春遠からじという言葉が当てはまるのであります。ことしはどのような冬になるのか、一抹の不安を抱かざるを得ません。黒石市は除雪234キロメートルを38工区、機動力96台で委託業者を中心におおむね10センチメートルに達したら出動させるとのことです。

まずお尋ねすることは、25年度の除雪状況と問題点があったかをお尋ねいたします。年々、市民からの苦情は少なくなっていると思いますが、どのようになっているかお知らせいただきたい。

高樋市長は、委託業者への説明会で黒石市の除雪はうまくいっていると評価した上で、「事故は絶対に起こしてはならない」、「充実した除雪をお願いしたい」と述べておられたのであります。また、建設部長は、「きめ細かな除雪を目指したい」と強調されたとのこと。そこでお尋ねいたします。

1点目は、11月12日入札、14日に契約、15日から出動準備、業者にすると入札をもう少し早めて、出動のための準備の時間が必要であるとのことですが、もう少し間を置くことはできないかであります。ましてや、重機を購入かリースで委託をする方は、1,000万円もの高額になりますので時間がほしいということであります。

2点目は、最低保証金が1台につき50万円は他市に比べても低いし、平成16年は契約の2分の1相当であり、1日2,400円の時もあったとのことです。私の知人には委託業者もいるし作業員もいるので、よくこのような会話になるのであります。昔は、春から秋は重機を擁して建設会社の仕事があったので除雪費が安くても良かったのであります。今は冬の除雪しきれないので検討していただきたいとのことです。

3点目は、路地の多い町内に袋小路が多く、住民も業者も雪のやりどころがないので、まずは雪置き場の確保、雪置き場のない路地は状況の把握をし、早目の排雪を講じてほしいということであります。

また、朝起きてこんなに雪が積もっている今朝、除雪は来なかったと思う日が、1シーズン二、三回あるのですが、除雪出動の指示はどのようになっているのかをお尋ねいたします。

次は、流・融雪溝の利用についてであります。

前年度より雪の投入時間の規制がなくなってから、雪の一斉投入でないで、流・融雪溝があふれて洪水になることが少なくなったのであります。しかし、町の中で投入してはいけない目印である赤旗を見ることが何度かありましたので、トラブルや原因、改善策を講じているの

かお尋ねいたします。

また、流・融雪溝が整備されているが、水不足のため役目を果たしていない箇所があるとのことでもあります。そのような所があるのか、あるとすれば解決策はあるのかであります。

次は、ふるさと納税についてであります。

先般の地方紙に、地方創生というタイトルで「愛着ある自治体に貢献できるふるさと納税制度の拡充が検討される」「過疎地でも自前の収入をふやせる貴重な手だてであり、地方創生の一助にしようとの国の思惑もある」「来年度から住民税の軽減の上限額を倍にする案が検討されており、ますます寄附がふえる可能性がある」ということでもあります。前回の定例会でも取り上げており、今回で2回目であります。前回のやりとりをもとに特典の導入についての考えを問うものであります。

1点目は、特典の導入の有無は担当課だけで決定をしないで、税に関係のある会計課や収納課、税務課の方々との話し合いをしていただきたいとお願いしております。話し合いはしたかと、内容はどのようなになったかであります。

また、特典の戦い、競争をしたくないと思っているのか、実施をしないということに疑問があります。別にびっくりするような特典やすごいものを提案しているわけでもないし、まずは特典の導入を考えていただきたいという提案であります。ある会合で、高樋市長は、市の職員の方々には少しでも税収が上がることを考えてくださいとお願いしておるとのことでもあります。このまま特典を導入しないということになれば、市長の意に逆行していると思われませんか。今までは今まで、首長はかわったのでありますから、考え方や取り組みを改めて検討する必要があるのではないのでしょうか。所見を賜りたいと存じます。

3番目は、市庁舎の新築についてであります。

先の議会で北山一衛副議長が庁舎の耐震調査の必要を訴え、調査の時期を聞いたところ、平成28年度に耐震診断をと答えています。昭和44年10月に完成、当時のお金で3億8,000万円の事業費だったのであります。もし耐震調査の結果、超危険な建物となった場合どのような対応をとるのか。市長は財政を優先にと答えておりますが、もし同じ規模の新築ということになると、事業費はどれくらいの額になるかお尋ねいたします。

20億、30億、もしくはそれ以上ということになると、当市の財政力からして新築は当分の間どうしようもできないということになると思います。新築がかなわないということになりますと、小・中学校の統廃合で使われない校舎を視野におくことも必要になると思いますがいかがでしょうか。所見を賜りたいと存じます。

最後の質問は、明るく笑顔のある市役所づくりについてであります。

まずお話しすることは、市役所に入ると暗い、廊下も暗い。節電、儉約令は理解しています

が、いつまでこの状況を続けていかなければいけないのかと考えるものであります。平成14年12月に財政破綻予備軍と報道されてから、これでもかこれでもかと行財政改革を進めてきましたが結果が出ず、新たに集中改革プランを策定し、行財政改革を断行してきたのであります。しかし、10年以上も経過しております。役所が暗ければ市民も元気が出ません。平成27年度になると、黒石市の財政状況は良い方向に変わっていくだろうと信じてきましたが、今の財政状況からすると簡単には変わることはないと言われる今日、役所の中だけでも明るくすることはできないのかお尋ねいたします。

また、大変失礼かとは存じますが、職員の方々も給与カットがあまりにも長く続いたせい、仕事や市民に対しても精彩に欠ける方もおられると感ずるのは私だけでしょうか。新しいアイデアを考案する意欲も薄らぎ、失敗・失態をしないように部署を守ることが精一杯としか思えないところもあるやに思います。苦しい財政下にあっても、職員の方々に笑顔とやる気を取り戻すためにも給与カットは緩和を進め、新たな環境づくりを図るべきと思っておりますがいかがでしょうか。所見を賜りたいと存じます。

先般、研修で佐賀県嬉野市へ行かせていただきました。嬉野市の議会のモットーは、議員が変われば議会も変わる、議会が変われば行政も変わる、行政が変われば嬉野は変わるとの思いで頑張っているのであります。私たち議員並びに議会も、もっともっと変わっていかなければならないし、職員を含み行政も笑顔を持ちながら積極的な気持ちをさらに抱き、市民のためにと気持ちを強くしていかなければならないと思うものであります。

以上で、壇上からの一般質問を終わらせていただきます。御静聴まことにありがとうございました。

(拍手)

降壇

◎議長（村上啓二） 理事者の答弁を求めます。市長。

登壇

◎市長（高樋憲） 中田博文議員にお答えいたします。私からは、ふるさと納税についての考え方です。

確かに、ふるさと納税制度は、減税措置により寄附金をふやす方法としては大変いい政策だというふうに考えております。しかし、市の大変厳しい財政状況を憂いて寄附していただける方々の御厚情を鑑みますと、寄附に対して物品で返礼するということは現時点では考えておりません。現在、寄附金の用途を明確にするなど、方策をとっておりますが、特典がなくとも寄附したくなるようなアイデアを、今後、全職員と検討し対応していきたいというふうに考えております。

その他につきましては関係部長から答弁をさせます。以上です。

◎議長（村上啓二） 総務部長。

◎総務部長（成田耕作） 私からは、ふるさと納税のほかの部署と話をしたのかということですが、特典の導入に関して他部署との話し合いは行ってございません。

次に、市庁舎の新築についてお答えいたします。

耐震調査の結果についての対応についてでございますが、診断結果により耐震補強工事になるのか改築工事になるのかの判断になると思われまます。市庁舎の新築に係る事業費についてはまだ想定をしておりませんが、他市町村の例では、五所川原市の新庁舎建設基本計画によりますと、約50億円の事業費を見込んでおります。また、平川市では21億円以上を見込んで検討に入っているとのことでございます。統廃合で使われなくなった小・中学校の校舎の利用については、新築等も含め国から平成28年度末までに求められている公共施設等総合管理計画等で協議してまいりたいと、そのように考えております。

次に、明るく笑顔のある市役所づくりについてお答えいたします。

市役所に入ると暗い、廊下が暗いとのことでございますが、議員御指摘のとおりエコ対策の一環として実施しており、電気料の高騰もあり、必要のないところは消灯に心がけ節電に努めております。しかし、市民が一番利用する1階ホールを明るくすることができないか検討しているところであり、廊下等については、市民に不便をかけているのであれば検討してまいりたいと、そのように思います。

続きまして、職員の給与削減のことでございます。

これまで、10年余りにわたる財政再建の中、職員数の抑制や給料の削減等、職員への負荷は少なくないことは認識しております。しかしながら、公僕である公務員として、そのことが仕事に対する意欲低下につながることはあってはなりません。確かに、新規事業が抑制され、閉塞感の中、何かを変えていこうという意識が低くなっていることは懸念されているところであります。そのために、10月から開催している市長と職員の意見交換は職員の仕事に対する意識改革も意図しており、今後の向かう方向をともに一つにする必要性と、さらに、「市民からすれば職員は行政のプロである」「市民の笑顔を見ることを目的にしてほしい」と話しております。市民の笑顔を見るためには、まず職員が笑顔でなければなりません。今後、期待していただきたいと、そのように思います。以上でございます。

◎議長（村上啓二） 建設部長。

◎建設部長（工藤伸太郎） 私からは、雪対策についての除雪のあり方と、除雪委託業者の実状についてを6項目。そして流・融雪溝の利用について、続けてお答えいたします。

平成25年度の除雪状況は、平野部が13回、山間部が17回出動いたしました。特に問題はご

ございませんでした。

そして、平成25年度の苦情件数は、平成24年度が記録的豪雪だったということもあり、苦情が約900件から約170件に大幅に減少しております。

次に、入札の早期実施については、例年どおり入札参加希望申請を9月の中旬から末日の期間で行っておりますが、申請の際には除雪車両の登録も全て終了していなければなりません。それからさらに入札まで1カ月以上の期間があるため、十分に準備できるものと認識しておりますので、現状の入札時期は適正であり、今以上に早くする必要はないと考えております。

次に、最低保証金については、除雪機械の維持管理費で、主に運転手等の拘束や車検・整備などの費用を考慮して算出しております。

次に、各工区内の狭隘道路の除排雪については、これまでも降雪積雪状況を考慮しながら委託業者と連絡を密にし対応しておりますが、今後、町内会及び写真による現地確認を強化し、早め早めの対応をしてまいりたいと思います。

次に、除雪出動の目安は、遅くてもおおむね午前0時から1時の降雪状況のみならず気象予測を見て出動するかどうかを決定しております。出動する時間が遅くなると、通勤通学ラッシュの支障となり、本来の目的である交通の確保ができなくなるため、このような方法をとっているということを御理解ください。

次に、流・融雪溝につきましては、市内の各流・融雪溝の路線ごとに利用者による管理組合が組織され、それらの組合が維持管理を行っており、各組合員に対する利用時の注意事項の周知徹底や巡回指導なども実施しております。仮に問題が発生しても各管理組合で対応するよう、指導しているところであります。

融雪溝整備区内において、適切な水量を配分をしているところでございますが、仮に問題となる箇所があるとすれば現地を確認する必要があり、関係する関係管理組合にも状況を早急に確認しなければならないと思っております。以上でございます。

◎議長（村上啓二） 答弁漏れありませんか。

（なし）

◎議長（村上啓二） 再質問を許します。15番中田博文議員。

◎15番（中田博文） 明るく笑顔のある市役所づくりについてでありますけれども、財政的には過去に比べて幾らかずつ好転してきておりますので、やっぱり1階、そういうところと廊下あたり、階段ですね。こういうものはもう少し、あまり金をかけなくても済むような形で明かりを求めるとというのが、高齢者・老人の方々がいまいますので考えていただきたいと思っておりますけれどもいかがでしょうか。

◎議長（村上啓二） 総務部長。

◎総務部長（成田耕作） もう一度、庁内点検いたしまして、いらないところから蛍光管を抜き取って廊下につけるといことも検討してみたいと、そのように考えております。

◎議長（村上啓二） 15番中田博文議員。

◎15番（中田博文） 今回の総務部長の答弁、すごいわかりやすくもいいんですけども、何か嫌味で答弁してるような感じですけども、もう少し真摯な感じで。

お金余りかけられないのはわかってますから、もうちょっと1階2階の中間とか3階4階の中間とか、何か考えていただきたいと思っておりますけども、いかがでしょうか。

◎議長（村上啓二） 総務部長。

◎総務部長（成田耕作） 真摯にそれでは答えたいと思っております。

1階ホール、確かに市民おいでになるということで、ちょっとあそこに書庫とか置ける部分がありますので、そこを取っ払ってですね、明るくしたいと、そのように考えております。以上です。

◎議長（村上啓二） 15番中田博文議員。

◎15番（中田博文） 先ほど、想定額ですけども平川市は21億円、五所川原市はまず50億円くらいかかるということで。もしもですね、今のこの黒石の建物と同じような形で新築した場合はどのくらいかかるのか、考えているかどうかお尋ねいたします。

◎議長（村上啓二） 総務部長。

◎総務部長（成田耕作） 現在、想定してございません。以上でございます。

◎議長（村上啓二） 15番中田博文議員。

◎15番（中田博文） じゃあ、次回また聞きますので、試算なり想定額をお願いいたします。答弁をお願いいたします。

◎議長（村上啓二） 総務部長。

◎総務部長（成田耕作） 次回聞かれてもたぶん、どのような、いろいろなやり方があると思っておりますので、そこはちょっと見極めた上でちょっと積算は仮の積算になるとは思いますが、やってみないと、そのように思います。

◎議長（村上啓二） 15番中田博文議員。

◎15番（中田博文） やっぱりですね、要するに耐震調査というものが28年やるわけですから、早めにいろんなことを想定しながら物事を考えていかなければいけない。それがまずは先決だと思うんですけども、ときには違うような分野でも、私たちが想像しないような分野でもですね、役所の担当は結構その先々、1・2・3とかってということで想定しながら物を考えているわけでございますので、そこ大事なことでありますので、もう一度お願いいたします。

◎議長（村上啓二） 総務部長。

◎**総務部長（成田耕作）** たぶん近い将来になりますけれども、当然ですね、有識者、それから議会の皆さん、市民の皆さん、職員も交えて検討していかなければならない。そのように考えております。以上です。

◎**議長（村上啓二）** 15番中田博文議員。

◎**15番（中田博文）** 除雪に関してお尋ねいたします。

去年あたりまでは結構苦情、それと要望ということで、結構いろんな地域の方々からちょっと状況を見に来てくれということで、東・西部という形で見に行ってたわけなんですけども。最近本当にこの検証と言うんですか、問題提起されたものの後、建設課は努力しながら復習しながら物事を検証してものをやっていると、非常に除雪に関しては話は出てきておりません。ただ、先ほど一般質問のほうでも述べたとおり、路地が狭く袋小路の所はですね、見に行くと雪が溜まってるということでもあります。で、よくその通りを通るときに結構空き地とか畑というものが、その通りにはあるんですけれども、何かこういう所をうまく行政側と業者が一体となってますね、借りることによってスムーズ・スピーディーに除雪できるのかなということを前からお願いしておりますので、そこもう少し踏み込んだ形で前向きに考える気持ちがあるかどうかということをお尋ねいたします。

◎**議長（村上啓二）** 建設部長。

◎**建設部長（工藤伸太郎）** 狭隘道路の除雪につきましては、例えば弘前市で小型除雪機を町内会等に貸し出すとか。それから、いろいろ町内会館などの空き地を使いまして、そこに雪を集めたりして固定資産税の免除などを行う、そういう制度があります。当市においても、市長からそのような除雪ができないかどうか宿題を承っております、現在調査中でございます。以上でございます。

◎**議長（村上啓二）** 15番中田博文議員。

◎**15番（中田博文）** 除雪に関してですね、聞かれるのは黒石は除雪費の単価が安いということはこちら数年前から聞かされております。近隣の例で、すみませんけれどもわかる範囲で、近隣の市町村の比較できるような形でなにか答弁できるものがあればお願いしたいと思います。

◎**議長（村上啓二）** 建設部長。

◎**建設部長（工藤伸太郎）** 近隣の市町村につきましては調査はしてございません。以上でございます。

◎**議長（村上啓二）** 15番中田博文議員。

◎**15番（中田博文）** じゃあですね、次回また取り上げますのでもうちょっと周りのことも研究なり把握しておかなければいけないと思いますので、よろしくお尋ねいたします。

それでは、流・融雪溝のですね、先ほど部長のほうから箇所、水不足で効果果たしていない

というところを聞き及んでおりますけれども、調査をしていきたいということでもありますけれども、実際何もわかっていないんですか。話として。

◎議長（村上啓二） 建設部長。

◎建設部長（工藤伸太郎） 具体的な地区については連絡はございません。例えば地区要望、それらにおいてでもそういう問題は出ていないと感じておりましたけれども。以上でございます。

◎議長（村上啓二） 15番中田博文議員。

◎15番（中田博文） やっぱり雪が多く降ってくると、流・融雪溝というのはその地域の方々には本当に大事な生命線みたいな形でありますので。先ほどの答弁だと管理組合つくってそこに維持管理をお願いしてるということであると。なんか行政のほうは責任がなく把握してないというふうにはしか私は感じられませんが、もう少し組合のほうに問題点、そしてまた何かこういう声があるからということで問い合わせをすとか、あくまでも行政が上に立つという考えでいかなければ、私たち、ものも聞かれないし進言もできないわけですから、その点もう一回お願いいたします。

◎議長（村上啓二） 建設部長。

◎建設部長（工藤伸太郎） 各地区の管理組合の流・融雪溝の総会、それらに職員を出してるわけですけども、それらの会合の中ではそういうお話はございませんので、中田議員さんから、どこからそういう情報が入ってきたのか後で確認させていただきたいと思います。以上でございます。

◎議長（村上啓二） 15番中田博文議員。

◎15番（中田博文） あとですね、先ほど質問しておりますが、結構朝起きて誰しもが感じることは、こんなに積もってるのに、本当にたまに、何回かあるんですけども、除雪が来なかった、どうしてだろう。これは多分、部長が先ほど答弁したとおり微妙に時間と降雪的なもののかみ合わないという形で出動の指示が出なかったと普通は思われるんですけども、天気予報とかそういうものをもとに、迷う時は出すべきと私は思いますけれども、いかがでしょうか。

◎議長（村上啓二） 雪対策については前に言うておりますので、提言として受け止めさせていただきます。15番中田博文議員。

◎15番（中田博文） ふるさと納税終わりました。

（「やってない」と呼ぶ者あり）

◎15番（中田博文） やってない。じゃあふるさと納税をやらさせていただきます。

まずはそのスタンス、特典の導入をしないという、まず最初からそれありきって私は感じておりますけれども。参考までにですね、同じことの繰り返しですけど、担当課と意見交換ということを考えて、今々導入しないということであれば、それはそれで結構ですから、今後とも

導入ということを考えた場合、意見の集約ということを考える気持ちがあるかないか再度お尋ねいたします。

◎議長（村上啓二） 総務部長。

◎総務部長（成田耕作） ふるさと納税の事務については総務課が所管しておりますので、事務的に必要がないということで市長との検討になると、そのように理解しております。

◎議長（村上啓二） 15番中田博文議員。

◎15番（中田博文） 私は、このふるさと納税の特典の導入をしながら税収を上げていかなければいけないということを、市民の方そしてまた、役所の職員の方々数多く、「どうしてうちほうはやらないのか」という声を聞いているので、私今取り上げて質問してるわけでありまして、担当課が何人いるかわかりませんが、極少数の人間だけで物事を決定しないで、幅広く意見を集約しながら物事を決定していくのが本来市民に対しての考えだと私は思っております。

三人寄らば文殊の知恵という言葉もあるようにですね、今すぐやれとか、考えていただきたいではなくて、今後とも検討していただく考えはあるのかなにかっていうことをお尋ねいたします。

◎議長（村上啓二） 総務部長。

◎総務部長（成田耕作） 検討はいつでもしております。仮に今後、軽減額が倍になるということになって再度検討してまいりたいと、そのように考えております。以上です。

◎議長（村上啓二） 15番中田博文議員。

◎15番（中田博文） 結構今いろんなアイデアを駆使しながら、いろんな特典の導入をしている自治体、市町村があるわけですが、ところによっては、ちっちゃな町が何千万円ふえると。というものを目の当たりにしながらですね、すごいと思う。

黒石あたりはなかなか税収を上げることができない自治体であります。そういうことをニュース等で聞かされた場合、どのような考えを持っているかお尋ねいたします。

◎議長（村上啓二） 総務部長。

◎総務部長（成田耕作） 非常にうらやましいと思います。ただ、1,700以上ある市町村の中で成功している例は一握りだと、そのように思っております。そのほかに、例えば物品の代金の送料とか、業者に委託するとか、必ずしもプラスになると言い切れない部分もあると、そのように考えております。以上です。

◎議長（村上啓二） 15番中田博文議員。

◎15番（中田博文） 税収が極端に上がるからやってほしいではなくて、黒石のリンゴ、米とかそういうものをPRできる場面というものが多々出てくるわけですので、そういうことをもっと強く考えるべきだと思いますけれども、いかがでしょうか。

◎議長（村上啓二） 総務部長。

◎総務部長（成田耕作） その点に関しては、それも一つの方法だと思いますが、観光の面とか物販の販売は別な形でやってもいるので、一つの方法としてはあるかもしれませんが、そういう観点から今のところは支障がないのではないかと、そのように思っています。

◎議長（村上啓二） 15番中田博文議員。

◎15番（中田博文） 今まで、前回は今回も説明聞いてると理解しないわけではありませんけれども、市民の方々はですね、絶好の機会だからやるべきだということを私のほうに言いに来る方もあります。そういうことを考えた場合ですね、やる方向で物事を考えていく、今々でなくてですね、ただ検討でなくてやる方向で煮詰めていくという考えを持っていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

◎議長（村上啓二） 市長。

◎市長（高樋憲） このふるさと納税につきましては、賛否があるわけでありまして。

しかしですね、このふるさと納税の本来の趣旨は、国が本来つくった趣旨はですね、このような形態を想定していた訳ではないというふうに私は認識いたしております。ですので、私自身も就任させていただきましたときに、即座にこのふるさと納税に対しましてはホームページにですね、黒石市は今までは古い物の、こみせ等の復元等に使用させていただきますという表現でありましたものを、人材育成に使用させていただくんだということを前面に出させていただきます、今ふるさと納税をいただくように努力してるわけでありまして、ここはですね、本来の趣旨というものを十分踏まえた上でですね、市の職員あるいは議員の皆様方、そしてまた市民の皆様方のいろんなアイデアをいただいてですね、そういう物品等ではなく、この黒石に対する思い入れっていうもので納税していただける環境に私はなっていなければならないというふうに期待をいたしております。

◎議長（村上啓二） 15番中田博文議員。

◎15番（中田博文） なぜ私、こういう形でくどくどやってるかということでもありますけれども、ふるさと納税をしてる県外の、県外に働きに行ってる子供さんの親御さんがですね、黒石市は財政が大変だからということをお子に話をしたらですね、わかったということでふるさと納税をしてるということでもありますけれども。せっかく誠意に対してですね、リンゴの1個でもいいから、その多い少ないではなくで、黒石市としてのリンゴ1個でもいい、というようなものの捉え方をすべきがいいのではないかと、進言があったので取り上げているということでもあります。それと物品を提供するということ云々とありますけれども、これこれこういう選択肢がありますよ、物品とかそういうもの何もいらぬ、もしくはリンゴ1個でもいい、これこれこういうものの選択肢を納税者に出すという考えをしていけば、別に今までの答弁を踏

みにじるような形にはならないと思えますけれども、いかがでしょうか。

◎議長（村上啓二） 総務部長。

◎総務部長（成田耕作） あくまで先ほど市長が申したとおり、あくまでも使途に関してアイデアを募っていききたいと、そのように思っておりますので、特典に関しては考えておりません。以上です。

◎議長（村上啓二） 平行線だよ。提言にしてください。15番中田博文議員。

◎15番（中田博文） せっかくのチャンスをもにしないということは、戦わざるして白旗を掲げてるような、私はそういう考えを持っています。

市民の中にはどうして黒石って積極的なものの考えをできないのか、今、軍師の黒田官兵衛やっていますけども、黒田官兵衛の100分の1でも、1000分の1でも積極的にものを前に向けていく、やるという意欲を持った職員がいないのかっていうことを私指摘されたので、今こうしてなんとか方向づけというものを考えていただきたいということをお願いしてるわけですので、再度また答弁をお願いしてこれで終わりますけれども、最後の答弁、もう一度お願いいたします。

◎議長（村上啓二） 総務部長。

◎総務部長（成田耕作） 意欲ある職員ばかりですので、今後そういう点についてもいろいろ教育しながら検討していきたいと、そのように思います。以上です。

◎議長（村上啓二） 以上で、15番中田博文議員の一般質問を終わります。

◎議長（村上啓二） 次に、2番工藤和行議員の登壇を求めます。2番工藤和行議員。

登壇

◎2番（工藤和行） こんにちは。私は、自民・公明クラブ工藤和行であります。

今議会におきましても、一般質問の機会を与えていただき、感謝しつつ若干の質問をいたしますので真摯なる答弁をお願いいたします。

師走に入り何かと慌ただしく感じる時節に加え、現在、衆議院議員選挙の真っ只中であることもまた、せわしなさに拍車をかけているのかもしれませんが。この際、有権者各位には、棄権することなく一票の権利を行使されることをお願い申し上げるものであります。

さて質問の1点目、農政について、アとして、米の価格下落対策についてであります。

平成26年産米の概算金は、上乘せがありましての一俵8,000円ほどと最低水準となりました。昨年から見ても3割以上の減収であります。このことにより、来年度からの耕作意欲の減退、耕作放棄地の増加といった事態にならないよう、何らかの対策が必要かと思うのであります。報道によりますと、つがる市では種子購入助成等の支援策を実施するといち早く発表しており

ます。

当黒石市におきましても米は、リンゴに次ぐ生産額であり主要作物と考えますが、当市の対応としてどのように考えているのか、1点お聞きします。

次に2点目、道路行政について、アとして「3・4・7黒石環状線」についてであります。八甲からりんご研究所脇、柵ノ木までの市道整備区間についてですが、現在事業着手しているこの工区の整備意義について、改めてということになりましょうが1点お聞きします。さらに私としては、セットだと思っておりますが、この先の工区、りんご研究所以南について、県道整備で要望している区間の路線整備の見込みについて現状をお聞きします。

例年この時期、建設部長に除雪に向けた気合いなどお聞きしておりましたが、今回は激励とさせていただきます。冬本番に向かい寒い中大変であります。担当部局、委託業者、連携とりながら、無事故、無災害で頑張りましょう。

以上で私の壇上からの一般質問を終わらせていただきます。

御清聴まことにありがとうございました。

(拍手)

降壇

◎議長（村上啓二） 理事者の答弁を求めます。市長。

登壇

◎市長（高樋憲） 工藤和行議員にお答えいたします。私からは農政についての、米の価格下落対策について等お話しさせていただきます。

平成26年産の価格につきましては、概算金が近年の最低基準まで低下したことによりまして、生産者及び出荷団体におきまして、来年の再生産に向けて不安な声が上がっているところであります。

青森県は稲作農家の経営安定を図るために、JAグループ青森が農家に融資する経営資金に対しまして、市町村の負担を求めない、利子補給を行う金融対策を修正案に計上することを発表したようであります。

したがって、稲作農家の生産意欲が減退とならないよう、年度内に種子購入費、ナラシ対策積立金や改良区負担金の一部助成等、他自治体の支援策や財源確保を考慮した上で、あらゆる角度から検討するよう、現在、担当部署に指示しているところであります。

他につきましては担当部長より答弁させます。以上です。

降壇

◎議長（村上啓二） 建設部長。

◎建設部長（工藤伸太郎） 私からは「3・4・7黒石環状線」についての工区の整備意義と、りんご研究所以南の路線整備の見込みについてお答えいたします。

黒石環状線は、国道102号を起終点とした市街地を取り囲む環状線を形成することにより、市街地の渋滞緩和や交通アクセスの向上を図る幹線道路として、都市計画に位置づけられる道路であります。

現在、八甲の黒石ガス東側交差点からりんご研究所西側を通り、柵ノ木三丁目の県道弘前田舎館黒石線までの延長906メートルについて、県知事の認可を受け、平成31年度の完了を目指し、用地買収に努めているところであります。

本工区に着手した意義は、主要幹線道路を結ぶことにより主要地方道大鰐浪岡線の渋滞緩和を促進し、生活及び事業活動を円滑にすること。また、黒石東小学校周辺への通過交通の流入を抑制し、児童の通学などの安全な道路環境を確保することであります。

なお、道路両側に車椅子も通行が可能な幅員を有する歩道を設置することにより、安全で快適な歩行空間を創出し、ユニバーサルデザインを考慮した計画としております。

次に、青森県に対する重点事業要望において、「黒石市における主要地方道大鰐浪岡線の交通渋滞の緩和について」と題し、その中で当核路線の整備を要望してきました。これに対して青森県の回答は、交通渋滞緩和策として右折レーンの設置と、流雪溝整備の対策を講じたことを挙げ、環状道路の整備による渋滞緩和・解消については、交通動向などを含めた総合的な検討が必要なことから、引き続き、市当局と調整を図っていくということにとどまっております。

右折レーンの設置や流雪溝の整備を実施していただいたことは、積極的な対応であるとはいえますけれども、残念ながら抜本的な解消とはなっていないため、交通分散の観点からりんご研究所以南の路線整備について、強く要望していく所存でございます。以上でございます。

◎議長（村上啓二） 答弁漏れありませんか。

（なし）

◎議長（村上啓二） 再質問を許します。2番工藤和行議員。

◎2番（工藤和行） ただいまは答弁ありがとうございました。

まず、農政について、米の価格下落対策についてでありますけれども、ただ今答弁いただいたように当市でも検討を指示しているというところでありましてけれども、この事業に対する予算といたしますか、どのぐらい見込んでいるのか、まずお聞きしたいと思います。

◎議長（村上啓二） 農林商工部長。

◎農林商工部長兼バイオ技術センター所長（永田幸男） いろいろな想定をした場合での指示を受けておりますが、まず、主に種子購入支援策を他の先行自治体並みにしたとする場合です。その試算としては、本年度経営所得安定対策に参加した872の農家・団体に対し、購入した主食用米の種子を対象に、10アール当り4.5キログラム換算で、購入金額の2分の1を助成した場合は、約900万円と想定しております。

以上でございます。

◎議長（村上啓二） 2番工藤和行議員。

◎2番（工藤和行） 種子購入に対して900万円。多いのか少ないのかは、他市町村と状況も違いますのでここでは言いませんけれども。

当市としましても財政的に大変厳しいのは前から財政的に聞いていてわかっておるところでありますので、私としてもこういう対策は求めておりますけれども、市としても無理はさせられないと、そういう思いもありますので、今回こういうことで聞いておりますが、また、ほかに国・県などで対策もこれから出てくるようでありまして、特に国におきましては、今後27年産に向けての対策など、例えばナラシ交付金への加入要件の緩和など、いろいろ考えているようでありますので、この際、当市の農家に対しましても、いろいろわかりやすく国のメニューなどを教えていただけるように、そういう対策といたしますか、できないものかお聞きしたいと思えます。

◎議長（村上啓二） 農林商工部長。

◎農林商工部長兼バイオ技術センター所長（永田幸男） 平成27年産米、特に今年度の場合は今の、今年度の支援対策として今検討しているところですが、来年度以降につきましても当然検討していかなければならないと考えております。

特に来年は県が新たに奨励しようとしている「青天の霹靂」、新たな奨励品種がデビューする年でもあり、また近日の新聞報道にありましたように、さらに米がちょっと過剰気味で、本県の場合さらに1.8%の減収を多分望まれており、新聞報道では24万2,460トンとなっております。これに関しては、今月12日にそのための会議が開かれる予定であります。黒石市も当然、生産調整の面積が若干ふやされる可能性があります。

こうした中で、新たな品種、さらには今までの品種、同時に作付しながらこの下落対策と、いろいろ農家の人たちについては作業も非常に手間取ることも想定されます。こうしたことから、いわゆる国のナラシ対策の動向等も踏まえまして、わかりやすい表現で素早く周知できるよう、農家への周知に努めるとともに、国がどうした対応していくかも含めまして、素早く対応できるよう市としても努めてまいりたいと考えております。以上でございます。

◎議長（村上啓二） 2番工藤和行議員。

◎2番（工藤和行） ありがとうございます。大変前向きな答弁をいただいたのかなと思いますけれども。現在、今議会に黒石の景観づくり条例、これも出ておりますけれども、この農地・田んぼ、この津軽平野に広がる田んぼは、私はこれも一つの田園風景だと思っておりますので、この風景も大事にしていくためにも、やはりこういう対策も手厚くとっていただければなという思いであります。

では、質問としては次に入らせていただきます。

道路行政についての「3・4・7黒石環状線」についてですが、ただ今はこの路線の整備意義並びに県への要望と伺いますか、路線整備のこれからの見込みということでお聞きしました。

まず、意義については市道整備としての意義は大いにわかります。ただ、壇上で申し上げたとおり、私はこれ以南、浅瀬石までの部分、一つのセットだと思っておりますので、先ほどの強くこれからも要望していくという話しですけれども、まずはこれまでどのような要望を県に対して行ってきたのか、まず先にお聞きしたいと思います。

◎議長（村上啓二） 建設部長。

◎建設部長（工藤伸太郎） 重点事業要望において、主要地方道大鰐浪岡線の交通渋滞緩和の対処方策として、黒石環状線のうち県道弘前田舎館黒石線から国道102号までの区間整備を要望してまいりました。その中で、交通の分散を図るための並走路線である県道吹上金屋黒石線は、幅員が狭小であるうえに急勾配箇所もあるため、特に通学路として交通安全面の上で適切な状況ではないことから、黒石環状線の整備はその対処にもつながる旨を記載し、同時に添付地図に整備要望区間とともに、市が今実施している施工区間も表示して、課題解消に向け積極的に取り組んでいる状況を青森県に対し示してきたところであります。もちろん架橋の必要性ということも訴えてまいりました。以上でございます。

◎議長（村上啓二） 2番工藤和行議員。

◎2番（工藤和行） これまでの要望ということで聞きましたが、自分でこれまでの要望のやつなど持って聞いて聞いたわけですけれども、この要望につきまして、表現、その他、若干といいますか大分弱いんじゃないかと思ひまして。しかも先だって、県知事との市議会議長会における当市の議長が出席して懇談した際のお話しを聞いたわけですが、県としてはこの路線、市で整備した後に様子を見て、その時県道としての整備を判断するという事を言われたと。これは、県に確認するという必要もございませんし、それが質問の趣旨ではありませんので、もうちょっと県に対しても強く要望迫るべきではないか。

交通渋滞対策としても、市の路線だけでは、やはりまた市の中心部に戻ってくる。また、八間道路あたりの交差点を嫌えば吹上金屋黒石線に降りる。すると降り口が急勾配、急カーブ、そして道は狭い、歩道ない。こういう危険なところに多くの交通を誘導するようなことになりかねない。なりかねないというか、整備意義からするとそうなるわけでありまして。そのとき県としては整備して時間差なく通ってもらいたいというのが私の思いでもありますので、ぜひこの路線、総事業費13億ほどかけて行う事業でありますし、市の持ち出しとしても半分くらいかな。市の持ち出しが13億か。これが巨額の予算をかけて行うわけでありまして、意義が薄れることのないように、今一度と伺いますか、もっと強い表現、また働きかけで、県にこれを渋

滞対策並びに交通安全対策などとして要望していただきたいと思うものであります。それについて、一つ答弁願います。

◎議長（村上啓二） 建設部長。

◎建設部長（工藤伸太郎） 現在、特に津軽南市町村連絡協議会を通じて、継続して強く要望しておりますが、現地の状況や市の強い意向をさらに伝えるために、表現方法の精査を行うとともに、さまざまな場面において、市にとって重要な課題であり、早期整備を望んでいることを訴えてまいりたいと思っております。

以上でございます。

◎議長（村上啓二） 以上で、2番工藤和行議員の一般質問を終わります。

◎議長（村上啓二） 昼食のため、暫時休憩いたします。

午前11時49分 休 憩

午後 1時03分 開 議

◎議長（村上啓二） 休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、4番今井敬議員の登壇を求めます。4番今井敬議員。

登 壇

◎4番（今井敬） こんにちは、自民・公明クラブ今井敬であります。

我々、20代の頃の憧れのスターであった、また男の象徴でもありました高倉健・菅原文太、相次いで亡くなり少々さびしい中、2014年最後の質問をさせていただきます。

12月に入り、暖かい師走かなと思っていたら、雪を連れた冬将軍が衆議院解散・選挙公示日に合わせたかのように、やはりやって来ました。ことしも1年があつという間に過ぎ去ろうとしております。振り返りますと、3年連続の豪雪で始まり、2月には前鳴海市長骨折・入院そして引退、4月には消費税5%から8%になり、7月に入るとすぐ市制施行60周年、そして高樋新市長、鳴海恵一郎新県議が誕生と、黒石に新しい風が吹きました。また、夏から秋には、連続して大型台風にての集中豪雨、そして休んでいた火山が目覚めたかのように御岳山の大噴火などで尽大な被害に見舞われました。幸い黒石には、大きな災害がなく何よりでありました。そんな中、9月には24年ぶり天皇皇后両陛下が大歓迎の中、当市を御訪問され、また、10月には韓国永川市との姉妹都市締結30周年を記念して、副市長議員団一行が来庁、記念事業が相続きました。来年はいよいよ財政再建達成の正念場の年であり、4月には統一地方選挙があります。当市議会も議会改革の中、基本条例など推進されましたが、地方創生が叫ばれる中、より刷新された活力ある議会が求められております。

それでは限りなき市民の幸せを願い、理事者側の誠意ある答弁を期待し、質問させていただきます。

まず第1に、子供の未来と教育についてであります。

最初に学校適正配置（統合）についてであります。少子化・過疎化が進む中、公立小・中学校の統廃合が各地で課題となっております。本市においても、平成24年、小学校10校を4校に、中学校4校を2校に統合する「小・中学校適正配置方針」を定めました。以後学校ごとに各地区で父兄住民に対し説明会を開催、教育委員会の方針説明や各地区の意見など聞き理解を得るために努力してきたと思いますが、この9月、適正配置のあり方についても一度再検討せざるを得ないと答えております。そこでお聞きしますが、どう再検討されるのか、その内容と本年度各地区父兄住民に対し何回ぐらい説明会を開催されたのか、その内容と地域住民からどのような意見が出たのかお聞かせください。それと、本市における統合による真のメリット・デメリットは何であるのかお聞かせください。

次に、小・中一貫教育についてであります。

文部科学省はことし9月、全国の国公立学校の小・中一貫教育に関する、初の実態調査の結果を公表しました。それによると、小・中一貫教育を導入している1,130事例のうち約9割が学力向上や不登校の減少など何らかの成果があったと回答しております。また、課題として、小・中の教職員間の連携の時間不足、教職員の負担増などを上げております。2016年度から小・中一貫校制度化へ向け検討を進めている文科省は、「小・中連携の効果が示された。また、課題解決も含め、今後の制度設計に生かしたい」としております。そこで高樋市長も前定例会にて「小・中一貫教育も視野に入れなければならない」と話されたのを記憶しております。私も選択の一つと考えますが、本市教育委員会の見解と、また、調査・研究など実施しているのならその結果などお聞かせください。また、現在全国で小・中一貫教育を導入している自治体、市町村はどのくらいあるのか。また、全体の何%ぐらいになっているのかお聞きいたします。

次に、最近話題となっております、黒石幼稚園についてであります。

大正10年設立、93年の歴史のある幼稚園であります。私個人としても、なくなるのは大変さびしい思いがいたしておりますが、さかのぼれば、黒石幼稚園は平成17年、第4次集中改革プランにおいて民間移譲の話が持ち上がり、市民からの反対運動などにより民間移譲しないことに決定しました。5年後に再度検討するという方針が出ていたと聞きます。そこで今年度、再検討した結果、諸事情により来年度は入園募集はしない。また、最長平成29年3月にて完全閉園との方針であります。我々議員に説明のあったのは9月でありました。考え、調査・議論する時間もなく、そして「黒石幼稚園の存続を願う会」は、入園児募集停止と閉園に対し反対の声を上げ、そして市内各所で反対署名運動まで展開、3,217名の署名が集まり「園児募集停止」

と「閉園」方針を白紙に戻し再検討をと、市長、市議会総務教育常任委員会へ陳情書が提出、付託となりました。

現在、委員会で聴取が行われていると聞きます。そこでお聞きしますが、なぜ現在の状況に至ったのか、話し合いなどを含め今までの経緯をお伺いします。また、来年度募集停止と29年閉園の方針に変わりはないのかお聞きいたします。

次に、大きな2番目として快適な雪国生活についてであります。

ことしの雪対策についてであります。先月アメリカニューヨーク北部の季節はずれの大寒波・豪雪にて都市機能麻痺のテレビニュースを見て嫌な予感がしております。

世界的異常気象の中、当黒石市もここ3年豪雪に見舞われ、特に平成24年の大寒波・豪雪では県産業技術センターりんご研究所の観測では積雪180センチメートルに達し、前年の166センチメートルを越え観測史上最高を記録。また、24時間降雪量53センチメートル、気温も氷点下マイナス15.9度と史上最も低い記録となりました。そんな中、豪雪による死者2名、負傷者17名、建物の全半壊9棟、りんご園の枝折れ、裂開、農業用ハウスの倒壊など農家の方々も大打撃を受けたことは決して忘れてはなりません。官も民も連日の豪雪に悲鳴を上げ、戦い続け、特に高齢者世帯、ひとり暮らしの高齢者の方々には、気の毒に思ったものでした。そして使った除雪対策費4億5,000万円も雪とともに消え去りました。ことしの冬も戦いに備えなければなりません。

第5次黒石市総合計画「だれもが住みやすい、住み続けたいと思える、まちづくりに努めます」とあります。高樋新市長も公約の一つ安心な黒石の1番目に「雪のない街づくり」をあげております。そこでお聞きいたします。「雪のない街づくり」とはどんな街をつくるのか。また、今冬の雪対策、特に除雪対策の内容と何か新規の施策などあったらお聞かせください。そして高齢者対策ですが、昨年実施した福祉部の除雪対策は大変好評と聞きます。本当に御苦労様でした。ことしも実施と聞きますが、その内容と現在の申し込み状況などお聞かせください。

次に、気象観測システム（アメダス）についてであります。

最近の異常気象について、専門家は「世界的に異変が起きている」と言葉を発しており、日本列島についても、今現在日本海の海水温が11月始めころと高く、また北海道ではとれるはずの鮭がとれず、暖流系の魚ブリが異常に網にかかったり変化が起きております。また、一昨日のニュースでは、今まであまり雪の降らない東京都でも地域によって大雪になったり、今までのデータどおりにいかないと、気象庁では都内観測地点の変更でシステムの移動が始まったようであります。

要するに地域によって事情が変わってきてるわけです。最近の火山噴火にて、新たに気象庁は八甲田山、十和田湖を観測地点として必要ありと発表しました。そこで、当市は県内では誰

が見ても有数な豪雪地帯であります。一日に50センチメートル以上も降り、夜の闇の中、見る見る増す雪の白さにさえ恐怖感すら覚えます。それなのに当市には気象庁の雪に対する地域気象観測システム（アメダス）による積雪計が設置されておられません。頼るところは県の産業技術センターのデータだけであります。気象庁発表の積雪データと食い違っている場合も多々あると聞きます。それでは市の雪対策にも故障が生ずるのではないのでしょうか。アメダス積雪計のデータなら行政も市民にとっても正確な状況を把握しやすくなり、充実した雪対策につながるのではないのでしょうか。160センチメートルを越えるような当市の雪深さを、県のデータで補完しなければ読み取れないとなれば疑問を抱かざるを得ないのであります。毎年のように流雪溝から水があふれ、交通障害をおこし、平成24年のように建物倒壊や命を落とす災難を繰り返してはならないと強く思うからであります。そこでお聞きしますが、弘前市や平川市にあるアメダス積雪計が当市にはどうしてないのでしょうか。また、青森県内に設置されているのは何カ所でどこの市町村にあるのかお聞きいたします。それと、国の気象庁の設置基準などどうなっているのかお伺いいたします。

最後の質問ですが、冬季イベントの活性化についてであります。

豊かな自然に囲まれ、四季を通じてさまざまな彩りが醸し出されるいで湯の里黒石で、冬のイベントは重要な文化産業の一つであると思います。代表的なイベントとして、全国的に有名な藩政時代から続く「旧正マッコ市」、「冬のこみせ」、「日本一の雪だるま」など、市外からも観光客が豪雪地帯の当市にやっけてにぎわいます。これからは地方創生独自の活性化が求められております。そこで2つのイベントであります、ウインタースポーツの代表の一つでもある「全日本スノーモービル選手権シリーズ」、マスコミにも取り上げられましたが2010年の第4戦、2011年の第5戦と、新潟・北海道大会と肩を並べ2年連続の青森県大会は当市、山形地区津軽伝承工芸館前特設コースで開催されました。行政、商工会議所、観光協会も後援し、あの広大な雪上において繰り広げられた迫力、雪煙を巻き上げながら疾走、手に汗握るレースは観る人に大きな感動を与えてくれました。特に鳴海市長の挨拶の中で、「この大会がさらに大きくなるように」と述べられ、私も大好きなイベントの一つで毎回欠かさず参加していましたが、昨年から話がなくなり、最近聞いた話では受け皿である当市の協会がなくなり大会を継続できなくなったと聞き、大変残念に思っております。そこでお聞きいたしますが、どうしてそのようになったのか、今までの経緯とこれからの対応などお聞かせください。それからもう一つのイベント「全日本ずぐり回し選手権大会」ですが、私の記憶では、日本ではただ一つ、いや世界でもおそらくただ一つだと思っておりますが、貴重な文化遺産であると思っております。県外からの参加選手もあり観光客数もふえていると聞きますが、そこでお伺いします。幼稚園児からおじいちゃんまで男女とも出場でき、昨年のお出場選手、観光客数などどのくらいになっているの

かお伺いたします。

以上で壇上からの質問を終わります。御清聴ありがとうございました。

(拍手)

降壇

◎議長（村上啓二） 理事者の答弁を求めます。市長。

登壇

◎市長（高樋憲） 今井敬議員にお答えいたします。私からは快適な雪国生活についての市長公約の「雪のない街づくり」についてであります。

ユニバーサルデザインの考えを採用し、流・融雪溝や除雪機械を利用して、冬の間も歩行空間を確保することで、年齢や障害の有無にかかわらず、誰もが利用しやすい環境のまちづくりをしたいという考えであります。また、弱者への雪対策といたしましては、自主的に活動されている除排雪ボランティアなどについて、効果を今以上なものにするための仕組みづくりを、考慮してまいりたいというふうに考えております。

私からは以上です。その他につきましては関係部長から答弁をさせます。

降壇

◎議長（村上啓二） 教育長。

◎教育長（阿保淳士） 私からは黒石幼稚園についての御質問にお答えいたします。

黒石幼稚園につきましては、教育委員会では平成17年度に廃園や民間移譲の話が持ち上がって以降、さらには平成21年度に「5年をめどに再度協議する」と決定して以降、これまで毎年、減り続ける園児数の推移を見守りながらも、何とか存続させたいとの思いでございました。

しかしながら、ことし4月時点での3歳児の入園者が、わずか2人しかいなかったという事実を、重く受け止めました。

このままでは集団としての教育活動が極めて困難であること、また、市の厳しい財政状況も考慮し、教育委員会としても苦渋の決断をしたところでございます。

これは、これからの黒石幼稚園の運営を教育的視点や財政的視点などから総合的に勘案しての決断でありますので、今後も平成29年3月末で閉園する方針に変わりはありません。

次に、保護者の皆様に対して事前に説明や協議がなかったことについては、保護者説明会の際に、保護者の方々から「4月の入園前に説明をすべきではなかったか」との声を聞き、事前の説明不足は否めないことを感じており、大変申し訳なく思っております。これまでの黒石幼稚園の経緯や、この5年間の教育委員会での協議過程について、保護者の皆様へ情報をお知らせできなかったことについて、重く受け止めております。

当然のことながら、現在、入園している子供たちが卒園するまでは黒石幼稚園を存続させ、できる限りの教育環境を維持していくこととしております。

教育委員会といたしましては、3年間の猶予期間を置いての平成29年3月末での閉園方針を公表したところでございますので、何とぞ御理解をいただきたいと思っております。以上でございます。

◎議長（村上啓二） 企画財政部長。

◎企画財政部長（後藤善弘） 私からは全国のスノーモービル選手権の大会の今後開催する予定はあるのかという御質問にお答えいたします。

平成23年、24年の2回にわたり、旧アクアリゾートパーク建設用地跡地におきまして、全国スノーモービル選手権シリーズ青森大会が開催されておりますが、全国大会の誘致や開催に中心的な役割を当時果たしてございました黒石スノーモービル協会が、現在、活動休止状態でございます。なくなったわけではございません。そのような事情がございまして、お聞きしたところ、今後このような大会を開催する予定はないということでございました。

その後、スノーモービルのイベントを開催したいという問い合わせがございまして、市としても、過去の事例を示しながら、騒音に対する周辺地域への同意、それから観客の安全確保対策、そして路上駐車対策など、それらに配慮したものであれば開催は可能である旨説明してございますが、その後の進展はございません。以上であります。

◎議長（村上啓二） 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（村元英美） 私からは高齢者等の除雪サービス事業についてお答えをいたします。

サービスの内容と今年度の申し込み者数ということでございましたので。

このサービスは原則70歳以上の高齢者のみの世帯をを対象にして、玄関から道路までを1メートル幅ぐらいで通路を確保するという事業でございます。

事業についてはシルバー人材センターに委託をしております。大体1時間以内ということになっております。シルバーの委託料1時間1,100円なんですけど、非課税世帯の方は本人負担が110円、課税世帯が220円で実施しております。アパートとか間借りの人は対象外と、大家さんにやっていってくださいということです。ほかにも身体障害者の方がいて自力でできない方とかは70歳以下でもその辺は対応しております。

ことしの申し込み者数ですけれども、先日締切しましたが、97世帯でございました。現在、サービス利用者を審査中で、なるべく多くの方が利用できるように調整はしておりますけれども、委託先のシルバー人材センターの登録者数が大分減っております、実際の会員の数が少ないため、申請世帯全ての実施は難しいんだらうと、去年で大体70世帯ぐらい実施しておりますけれども、ことしは登録者の数で、今シルバーのほうで調整しているというところでございます。以上です。

◎議長（村上啓二） 農林商工部長。

◎農林商工部長兼バイオ技術センター所長（永田幸男） 私からは冬季イベントの活性化に関して、全日本ずぐり回し選手権における昨年度の出場者数と観客数についてお答えいたします。

まず、小学生以下の園児、児童が44人、中高生を含む一般が43人の選手権への出場者数となっております。観客数は300人となっております。以上です。

◎議長（村上啓二） 建設部長。

◎建設部長（工藤伸太郎） 私からは、快適な雪国生活についての中のことしの雪対策について、気象観測システム（アメダス）について、3項目続けてお答えいたします。

平成26年度の除雪延長は、車道除雪は233.9キロメートル、歩道除雪は21.3キロメートルの、合計255.2キロメートルとなっております。市内を38工区に分け、96台の除雪車で対応することになります。一斉出勤は、降雪量がおおむね10センチメートルに達した場合としておりますが、気象予測を見て出勤するかどうか決定したいと思っております。また、市民共通の雪置場については、昨年と同様に8,000平方メートルを浅瀬石橋上流約540メートル付近の河川敷に設けることにしております。さらに、流・融雪溝については今月3日に通水し、その翌日4日から利用できるように準備をしたところであります。

新規の施策につきましては、昨年に引き続き老朽化したロータリー車を更新し、今月納車予定となっているところでございます。これによりさらに機動力が増すと考えてございます。

それから次に、黒石市に気象庁所管の地域気象観測所アメダスは、黒石市馬場尻南地内にあります。観測種目は、降水量、気温、風向、風速、日照時間であり、雪の観測は行われておりません。雪の観測につきましては、運動公園内にあります青森県所管の観測所で実施しているところでございます。

県内では青森市の青森地方気象台と酸ヶ湯、弘前市、八戸市、五所川原市、十和田市、むつ市の金曲と脇野沢、平川市の碓ヶ関、今別町、鱒ヶ沢町、深浦町、野辺地町、大間町、三戸町の15カ所に設置されているということでございます。

国の設置基準につきましては、気象庁のホームページによりますと、降水量を観測するアメダスが全国で約1,300カ所、そのうち降水量に加えて風向、風速など他の種目を観測しているところが21キロメートル間隔で約840カ所あるというということで、その中でさらに雪の多い地方に当たるところが320カ所あり、積雪の深さを観測しているというところでございます。以上でございます。

◎議長（村上啓二） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（奈良岡和保） 私からは、学校適正配置についてお答えします。

まず、9月の全員協議会で御説明いたしましたとおり、小・中一貫、小・中連携教育の推進

といった義務教育の見直しや、小・中学校の統廃合に関する指針の見直しといった国の動向、地域からの要望や市の財政状況などから再検討した結果、中学校では六郷中学校の統合先なんですけども、それまで中郷中学校と黒石中学校に分かれていたものを、どちらも黒石中学校へ、小学校においては統合校を中間地点の六郷中学校としていたものを、現六郷小学校の校舎へ、また、統合年度を中学校は29年度、そして小学校は30年度からというふうに見直しをしました。

次に、住民説明会等の実施状況についてですが、4月4日から18日にかけて追子野木、浅瀬石、東、山形、牡丹平の各地区協議会長に対し、他地区協議会との打合せ進捗状況等についての説明を計5回行いました。また、10月21日から27日にかけて中郷小学校のPTA、東英中学校PTA、六郷地区振興協議会及びPTAに対し、9月12日の議員全員協議会でも御説明申し上げました「小・中学校適正配置の方針の一部見直し案」についての説明会を計3回実施しております。今後も随時実施していく予定でございます。

また、統合によるメリット・デメリットでございますが、まずメリットとして、複式学級の解消、多様な考え方に触れる機会が多くなり集団生活を通して学ぶことが増える、学級数増に伴う教職員定数増により教育活動の充実や教職員の負担軽減を図れる、管理運営費や維持補修費等の削減などが挙げられます。デメリットとしては、学区が広がり通学距離や通学時間が増大するなどございます。以上です。

◎議長（村上啓二） 指導課長。

◎教育委員会理事兼指導課長兼教育研究所長（宮崎晃一） 私のほうからは、小・中一貫教育についてお答えいたします。

小・中一貫教育には、小学校と中学校を同じ校舎として進める施設一体型を初め、同一学区の小・中学校が教育課程や教育目標を共有し、児童生徒・教職員の交流を密にしていく連携型など、さまざまな形態があります。

小・中一貫教育は、最近大きな課題となっている中1ギャップの解消や義務教育の質の向上が期待されることから、文部科学省も小・中一貫教育の早期制度化を検討しているところです。

教育委員会といたしましては、現在行われている同一学区による小・中学校連携事業を生かして本市にあった小・中一貫教育の実現を図っていきたいと考えております。しかしながら、国の動向もまだ定まっていない状況から、現状では先進校等の情報収集等を行っております。

なお、議員御質問の小・中一貫校の数ですけれども、昨年度のデータによりますと、全国では130校、県内ではむつ市や三戸町などの学校3校の設置が確認できております。以上です。

◎議長（村上啓二） 答弁漏れありませんか。

（なし）

◎議長（村上啓二） 再質問を許します。4番今井敬議員。

◎4番(今井敬) まず、誠意ある答弁ありがとうございました。

再質問させていただきますけれども、まず黒石幼稚園の件なんですけれども。

確かに子供が少なくなっている。これはもう当然、我が市だけではなく全国的な問題であります。そこで私が一番心配しているか危惧するのはですね、これは幼稚園だけでなく学校の統廃合にも絡むんですけれども、行きたいところがなくなる。それによって若いお母さん方、若い父兄の方が転出するのではないかなという心配があるんですよ。

というのは、全国でもそういう事例が起きております。あそこの学校行きたくないから隣の町へ引っ越そうとか、そういう事例が起きてるってことをお聞きしたんですけれども。今、当市にとって人口が少なくなって1人でも子供さんがほしいときにそういう問題があっちゃならないと。その辺どうでしょうか。

◎議長(村上啓二) 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長(奈良岡和保) 黒石幼稚園、市立の幼稚園ですけども、このほかに黒石市内にはレジア幼稚園、東雲幼稚園がございます。また、今、認定こども園ということで幼保一体型の施設もこれからできていくというようなことであって、選択肢はいろいろとございます。また、他市町村においても市町村立で直営している幼稚園というのはほとんど少なくなっております。そういう状況下においてはそうした心配はないかと思っております。以上でございます。

◎議長(村上啓二) 4番今井敬議員。

◎4番(今井敬) わかりました。

それでは次に気象観測システム(アメダス)についてちょっとお伺いしますが、確かに先ほどの答弁では雪の降らない八戸、あるいは十和田、十和田は降りますけどもこっから比べたらわずかな降り方ですが、大間とかいろいろあるわけですね。どうも私、合点行かないのは、なぜ黒石の地域に今までなかったのかなという、これ以前から考えていたんですけども、今までに設置要望なり運動なり、県あるいは国に対してやったことがありますでしょうか。

◎議長(村上啓二) 建設部長。

◎建設部長(工藤伸太郎) 平成25年の2月27日に、県内の大雪などの被害に係る意見交換会ということで、浪岡の中世の館で板柳、浪岡、黒石が今年度積雪が多いところであるが、気象庁の観測所がないということで意見を申し上げます。それから、平成25年の3月に平成25年度市町村会議における提言ということで同じような意見を出して申し上げます。以上でございます。

◎議長(村上啓二) 4番今井敬議員。

◎4番(今井敬) 平成25年度にそのような提言をなさっていると。それに対する回答はどういっ

た回答でありましたでしょうか。

◎議長（村上啓二） 建設部長。

◎建設部長（工藤伸太郎） 残念ながら設置には至らないというお返事でした。以上でございます。

◎議長（村上啓二） 4番今井敬議員。

◎4番（今井敬） 残念ながら設置しないと。私なりに考えて、そうですか、じゃわかりましたっていうんでなくして、やはりこの豪雪地帯にはどうしても必要なんだという、もう一つ押しですね、行政としての押しの一つが不足してたんでないかなという、私思いあるんですよ。そうならば私ら経済建設委員会でもですね今後考えてみますけれども、県なり気象庁なり出向いでですね、ぜひともつけていただきたいという要望、一度でだめなら二度、二度でだめなら五度とそのぐらいのの意気込みが必要だと思うんですけども、その辺最後にお聞きします。

◎議長（村上啓二） 建設部長。

◎建設部長（工藤伸太郎） 今井議員おっしゃるとおり、これからも国や県に対し要望をしていきたいと考えております。以上でございます。

◎議長（村上啓二） 4番今井敬議員。

◎4番（今井敬） それではイベントについてお伺いしますけれども、特にずぐり回し選手権なんですけど、私の近くでも非常にこれを楽しみにしている子供さんもおります。先ほどの答弁では子供さんが30人ですか、おったと。この貴重な、ほかではやってない、ずぐり回し。私も小さいころよくこま回しはやりましたですけども、地域の伝統としてなんとか子供さん方にもうちよっと普及できないものかなと。冬、各学校では校庭が雪で覆われ、スポーツ運動に関しては制限される面もあると思います。そういったことで、各小学校あるいは中学校のずぐり回しをもうちょっと授業の一環とまではいかないまでも、少し発展性のあるイベントとしてですね、子供さん方の普及考えていただきたいんですが、一つ御答弁お願いします。

◎議長（村上啓二） 農林商工部長。

◎農林商工部長兼バイオ技術センター所長（永田幸男） 参加人数でございますが、これ多いと見るか少ないと見るかはなかなか難しいところだと思います。

ただ、従来までのかくじ広場でやってたものから、今旧ソフニ書店跡地に移して、観客も非常に多くあの場所いっぱいになるぐらいで現在実施してございます。底辺を広げる、普及活動のお話だと思いますが、これは学校で捉えてもらえるのか、あるいは社会教育の場でもこうしたことは考えられないか、いろいろ主催団体とも協議し、もしくは関係課とどうした形でやれるのかについては、ちょっと話題にしたいと思います。以上でございます。

◎議長（村上啓二） 4番今井敬議員。

◎4番(今井敬) ありがとうございます。今の部長の解答で、かくじ広場でやった、で、そこがソフニ書店の跡になった。当然今度どんどんふえていくとあそこも狭くなる可能性あると思うんですよ。ですから、将来を見据えてですね例えば御幸公園、駐車場の問題なんかもあると思うんです。見に来たくても駐車場わからない人、今のソフニ書店あたり、市役所はありますけれどもね、そういった意味で将来大きな大会になるんだという意味で御幸公園あたりをどっと広げてやれないもんですかね。一つお伺いします。

◎議長(村上啓二) 農林商工部長。

◎農林商工部長兼バイオ技術センター所長(永田幸男) これは市が直接主催しているイベントではないんでありまして、商工会議所を中心として観光協会も絡んで、それぞれの団体が協力して実施しております。そういうことで、いわゆる主催団体とも協議しながら会場の問題につきまして、今後のイベントの拡充とかそんなことも含めまして、話題にしたいと思います。

◎議長(村上啓二) 4番今井敬議員。

◎4番(今井敬) それでは雪の除雪に関しての一つ、高齢者の問題なんですけど、先ほど健康福祉部長から九十何名申し込みがあると、で、全員がちょっと無理ではないかなという話しが出たんですけども、やはりお年寄りの方は申し込んだ以上は絶対やってもらいたいという思い強いと思うんですよ。そういったことでシルバー人材センターでそれだけの受け入れ態勢がないというのであれば、90人のうち80人になったり70人になったり、外れる方も出てくるのではと心配するんですけども、やはり外れたということになるとやっぱりさびしい思いますよね。

そこで私、以前に、これ追子野木では地区の消防団が社会福祉協議会あるいは町会長並びに会議の上、ボランティアで追子野木のひとり暮らしの屋根雪降ろしたりしてるんですけども。前に私も質問した記憶あるんですけども、緊急の場合のレスキュー隊、これ青森市でも市役所でもやっておりますけれども、職員の中でちょっと丈夫な方をですね20人なりでレスキュー隊をつくっていただいて、緊急に備えるとか考えられないものかなと。その辺一つお答えお願いします。

◎議長(村上啓二) 総務部長。

◎総務部長(成田耕作) 職員のレスキュー隊に関しては考えはございません。

◎議長(村上啓二) 4番今井敬議員。

◎4番(今井敬) 非常にあっさりした答弁で、ないと言えればそれまでなんですけれども、シルバーの方もやっぱりお年寄りの方が多いわけですよ。やってもらうほうもお年寄りと。やっぱりこれは必ず矛盾します。雪下ろしというのは私でさえ疲れて1時間もやってると汗だくだくになるくらいの重労働であります。そういったことで、消防団員の方々とかそういう方は頑丈な方でいいんですけど、その辺一つ考えていただきたいなと思います。

それから除雪について最後になりますけども、時間もなんですから。以前ですね大雪の時、追子野木で火事がございまして、非常に狭い路地のちょうど奥から2件目ですか、丸焼けになった記憶が一つあります。そのときにこの大雪の障害、それから消火栓が近くになかった、これも雪のために非常に手間取ったと。これ地元からも以前要望が出たと思うんですけども、消防署のほうで必要なしと言われそのままになっております。こういったことで特に路地の除雪と、それから子供たちの通学路の除雪だけはしっかりと、もちろん事故は絶対起こしてはなりませんですけども、ことしの冬は特にこれお願い、提言として申し述べて再質問を終わります。どうもありがとうございました。

◎議長（村上啓二） 以上で、4番今井敬議員の一般質問を終わります。

◎議長（村上啓二） 次に、10番工藤俊広議員の登壇を求めます。10番工藤俊広議員。

登壇

◎10番（工藤俊広） 皆さんこんにちは。自民・公明クラブの工藤俊広でございます。

平成26年最後の一般質問をさせていただきます。

11月21日、衆議院が解散いたしました。景気動向を見極め、消費税の10%導入時を1年半先延ばしにすること、さらに10%導入時に軽減税率の導入を検討するということが自公間で合意いたしました。アベノミクスにより確実に株価、為替、求人倍率等景気の動向はいい方向に向かっております。しかし地方では景気の上向きを感じる状況ではありません。地方の回復が今後の課題とされているわけであります。解散の当日、参議院本会議で自民公明などの賛成多数で人口減少克服や経済の活性化の基本理念を示した「まち・ひと・しごと創生法」と改正再生法が可決成立いたしました。これにより2016年までに各自治体に地方総合戦略の作成が求められます。当市においても、いわゆる地方創生に対する取り組みが非常に重要となってきます。地方の必要とすることを地方から国に要求をしていくというのが、地方創生の趣旨であると思っております。

国は、自らの自治体をこうしたい、こうできないかという積極的な取り組みを期待しています。今後、国にとっても当市にとっても非常に重要な取り組みとなる地方創生に対する取り組みについて質問をいたします。

初めに、当市の抱える問題をどのように認識しているのかが今後の計画に反映してくると思いますので、まず当市がどのような問題意識をもっているのかをお聞きしたいと思います。

次に、体制の強化についてお聞きいたします。情報の収集、分析、計画の作成をするために、総合戦略を練る部署の体制強化が求められると思いますがどのように考えているのかをお聞きいたします。

次に、7月に市長が就任して以来、職員との対話を続けてこられました。現場の職員と市長と相互理解を求める対話の推進を提案させていただいた一人として、大変スピード感のある取り組みであると高く評価をしたいと思います。そこで、これまでの職員との懇談に対する市長の率直な感想と成果などありましたらお聞かせいただきたいと思います。

次に、今後の取り組みについてお聞きしたいと思います。

最近、刺激を受けた講演がありました。黒石で行われた議員研修での株式会社キースタッフの鳥巢研二先生による、「地域が6次産業化して食産業を起こせば、地域は元気になります。」との講演でした。強く訴えていたのは、農産物の生産、加工、販売までを一貫してトータルコーディネートする人材の育成が急務であるということでした。また、青森公立大学教授の天野巡一先生の地方自治体の方向性から、今までと今後から見た自治という講演です。私が刺激を受けたキーワードは、「行政が利益を目指す時代に入っている」という内容であります。具体的な事例として、昼はコーヒーを飲みパスタを食べながら本を読み、夜にはお酒も飲めるという図書館、ワンコインバスで2,000万円の利益を生んでいる自治体などの紹介がありました。

お二人の講演を聞いて私も考えてみました。黒石市で出来るかも知れないと思うことを3つほどありますので担当課から感想をお聞きしたいと思いますのでよろしくお願いします。

1つ目は、水事業です。黒石は水道料金が高いと市民の皆さんからよく言われます。議会としても今議会に料金の見直しを求める議員提出議案が出されます。水源の浅瀬石川を持ちながら非常に矛盾を感じています。そこで市所有の土地で自前の水源を確保し、民間事業者が運営販売をする、黒石名水復活事業。

2つ目は、空き教室を活用し、民間事業者が自校式の給食提供と高齢者向けに食事の宅配事業を行う、学校食堂。

3つ目は、中野もみじ山にたくさん訪れる観光客をもっとにぎわいをもって迎えるために、「やすらぎの駐車帯」を活用し民間業者に販売スペースを提供し利用料をいただく、安らぎとにぎわいの創出事業であります。

いかがでしょうか。必要だと思ふことが発想の中心で、行政が営利を目指す時代に入っているとの考え方です。私は今後の地方創生に向かうに当たり自主財源の確保が重要な視点であると思っています。当市の今後の取り組みについての考えをお聞かせください。

最後にピロリ菌の公費助成についてお聞きしたいと思います。前回の一般質問でも取り上げましたが、来年度にピロリ菌の検査についての公費助成が予算として反映されるのかどうか、見通しについてお聞きして、壇上からの質問といたします。御清聴ありがとうございました。

(拍手)

降壇

◎議長（村上啓二） 理事者の答弁を求めます。市長。

登壇

◎市長（高樋憲） 工藤俊広議員にお答えいたします。私からは地方創生についての中で、市長と職員との懇談についての率直な感想ということでもあります。

今回、全部で25回予定されているうち24回やらせていただきました。職員の方々と意見交換させていただきまして、私自身は7月18日に市長に就任させていただいて、その際にも無競争でありましたが、市民の方々に掲げた公約等に対する質問、意見、あるいは現在職場で感じられる意見、要望等いろんな部分でお話しをさせていただきまして、大変率直な意見をいただいておりますね、私なりに大変参考になった部分がたくさんありました。

今回のこの意見交換の中におきまして、ある面では職員目線での市役所内部のいろんな政策、また対応を変える必要を十分認識させていただきましたし、これは私だけでなく一緒にその話を聞いていただいた職員の方々も受け止めていただいたんでないかなってふうな感じがいたしております。と同時に、職員の方々も今まで財政再建って部分で十分頑張っただけで、しかしこのままではいけないっていうのはみんな共有の意識であったような感じがいたしてました。

今回のこの意見交換を踏まえましてですね、全職員一体となってですね、新たなる黒石っていうものをこれから目指して行動を起こしていきたいってふうに考えております。以上です。

降壇

◎議長（村上啓二） 市長。あわてないでゆっくり。

登壇

◎市長（高樋憲） 大変申し訳ありませんでした。

地方創生について、国の方針、市長の方針があると思うが、市としての考え方があれば認識している課題についてどう取り組んで行くのかについても答弁させていただきます。

まず、人口減少、少子化、高齢化への対応についてでありますけども、1点目は新たな仕事をつくり、安心して働けるようにすることです。誘致企業の継続も必要であります。地場産業の育成に努めることや、農家の所得向上だけでなく、雇用の拡大を図るためにも6次産業化の取り組みが必要であるというふうに認識いたしております。

2点目の、若い世代が子供を産み育てやすい環境や教育環境の整備に努めることも必要であるというふうに思っております。

3点目は、当市への新しい人の流れをつくる取り組みとして、大都市圏からの移住・交流の活性化を目指すことも必要であるというふうに認識いたしております。

4点目は、古い街並みを大切に、市民や観光客が癒される魅力ある環境づくりにも取り組むべきであるというふうに認識いたしております。

これらの施策によりまして、黒石に住み続けたい、そして黒石というまちに住んでみたいと

いう強い関心をもっていただけるようなまちづくりと、魅力発信力を高めていく必要があるというふうに考えております。

次に、厳しい財政状況への対応についてでありますけれども、少ない財源をどう重点的に投資していくのか、また、今後国で示す地方創生に係る具体的な施策を当市の行政課題にどう有効に生かしていくのか、国の動向を注視しながら、全庁的な視点で取り組む必要があるというふうに考えております。

また、12月1日づくで立ち上げました「黒石市施策提案プロジェクトチーム」は、男性職員10人、女性職員4人計14人の庁内を横断した構成となっております。中長期的な視点に立ち、5年後・10年後の黒石を活性化するための施策について、柔軟な発想を持って検討することといたしております。

特にこのプロジェクトチームに関しましては、夢を語っていただきたい。その夢をみんなはどう実現するのか、それに対してみんなで取り組んで行こうということでこれから進めていきたいというふうに考えております。私からは以上であります。

降壇

◎議長（村上啓二） 総務部長。

◎総務部長（成田耕作） 私からは地方創生の体制の強化についてお答えいたします。

地方創生だけに特化した専門部署の新たな設置については、今現在考えてはおりませんが、各分野を横断し、総合的に政策・企画立案を推進して行くための部署の新設については、現在検討中であります。

また、地方創生に関しては、当面は企画課が中心となって、多方面から情報を収集し、関係各課に情報を提供し、新部署と連携を図り取り組んでまいりたいと考えております。

また、この地方創生に関しては、全庁あげて取り組んで行くべきものであるということを認識しております。以上です。

◎議長（村上啓二） 企画財政部長。

◎企画財政部長（後藤善弘） 私からは3点お答えいたします。

地方創生の黒石の課題、そして自主財源の確保に関係して6次産業、そして水の関係ですね。その3点をお答えいたします。

まず課題でございますが、国は人口減少克服、東京一極集中是正に正面から取り組むため地方創生政策を打ち出し、5カ年計画の総合戦略策定に向けて作業を進めております。また、平成25年度に策定されました「青森県基本計画未来を変える挑戦」の人口減少克服プロジェクトでも人口減少、少子化等などの課題として取り組むこととしてございます。

当市における地方創生の課題といたしましては、人口の減少率が他の自治体と比較して高い

ということ。その一番の原因は、地元の企業・事業所等が年々減少しまして、雇用機会が減少することによる人口流出にあると認識してございます。

特に平成17年と22年の国勢調査の比較では、当市の人口減少率は6.0%で県内10市の中で五所川原市と同じくワースト2位という位置でございます。また、15歳から19歳の減少率は10.9%、さらに20歳から24歳の減少率は最も高いわけですが、28.3%と若年層の減少が特に大きい状況になっておりまして、これは進学または就職で市外に転出した人が多いためだと考えられております。

さらに、当市においては財政状況が厳しいことも大変大きな課題でございます。現在平成27年度の全会計黒字化に向けて取り組んでございますが、28年度以降もですね、厳しい環境が続くものと想定してございます。

それから自主財源の確保という観点からの6次産業化等のもので、含めた、それらに対する所見ということでございます。

当市は財政状況が厳しく、今後、地方創生を始めさまざまな行政課題に取り組むにあたり、自主財源の確保は非常に重要でありまして、あらゆる方法を探っていく必要がございます。

このようなことから、施策の立案・形成につきましても、将来税収の増につながるような施策を検討するよう、市長から職員に指示が出されておりました。議員御提言の事例・御意見も参考にしながら今後、調査・研究・提案、そしてさまざまな自主財源につながるような施策の展開に向けて努めてまいりたいと、そういうふうを考えてございます。

それから、水の関係でございます。

名水、それを売って自主財源につなげられないかという、御提言と受け止めましたけども。

当市は市民憲章にあるとおり「水清くあずましの里」で古くから市内にはおいしい湧き水が豊富であると言われてございます。

名水の活用については、自主財源を確保するための議員の御提言と受け止め、その可能性について実施方法、それから費用対効果等も含めまして研究を進めてみたいというふうに思っております。以上です。

◎議長（村上啓二） 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（村元英美） 私からはピロリ菌の公費助成についてお答えをいたします。

27年度、公費助成をする予定はあるかということでございますが、現在検討中でございます。以上です。

◎議長（村上啓二） 農林商工部長。

◎農林商工部長兼バイオ技術センター所長（永田幸男） 私からは地方創生に関して議員からの

御提言である、中野のもみじ山やすらぎの駐車帯への出店についてお答えいたします。

まず、あれほどの集客のできる施設となりつつありますので、当然いろんな出店をしていただいて活性化を図るということは大変重要だと思っており、これまでもなんとかそうしたいと考えてきております。

やすらぎの駐車帯そのものなのですが、実は駐車帯にはまず地元でやってる販促施設がございますので、駐車場自体は、特に日曜・休日になりますと非常に混雑するほど駐車されますので、駐車スペース以外の空きスペースをどう活用するかということがまず一つ問題になります。これについては当然町内会との利害調整が必要になります。

また隣接する土地ですが、これは所有者が違うところもありまして、一部は新たに駐車スペースとしてまた使ってる場合もございます。これらについても、これら土地所有者等との調整が必要なことから、いずれにしましても関係者からの意見聴取等調査から始めなければ進まないと考えおりますので、まずその関係団体・関係者からの意見聴取から始めたいと考えます。以上でございます。

◎議長（村上啓二） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（奈良岡和保） 私からは学校給食について、民間業者が学校の空き教室を利用して提供することができないかという御質問に対してお答えいたします。

学校の空き教室を利用して学校食堂として活用してはどうかという御提言なんですけども、小学校の学校給食については、現在、弘前市東部給食センターから提供を受けるということで弘前市との協議を継続中ですので、民間業者からの供給は考えておりません。

また、調理を要して給食を提供する場合は学校給食法上の制限もあり、困難と思われれます。しかし、他自治体の中学校の給食の事例として民間業者による弁当、デリバリー形式の給食を実施するにあたり、空き教室等を配膳室として使用している例もございますので、中学校給食実現の一つの可能性として引き続き調査・研究に努めてまいります。以上です。

◎議長（村上啓二） 答弁漏れありませんか。

（なし）

◎議長（村上啓二） 再質問を許します。10番工藤俊広議員。

◎10番（工藤俊広） ありがとうございます。

感想をお聞きしたんですけども、みんな、検討・研究・調査っていう答弁をいただいたような気持ちで大変うれしく思います。

まず、それではピロリ菌から、ちょっと検討中だってことなので検討の参考にしていただければなっていうことで御紹介させていただきたいと思っておりますけれども。先日、当会派で議員研修、嬉野市というところに行って来ました。ここはピロリ菌の検査についての公費助成をいち早く

取り入れたところであります。そこでデータをもらってきましたので御紹介したいというふうに思います。

人口が2万8,000人の市でありまして、当市よりも規模は小さい、そういったところであります。24年度から始めておりまして、初年度で対象年齢の方がまず30歳を限定して決めてやりました。その結果、受診をされた方が31名、その中で陽性反応が出た方が6名いらっしゃいました。パーセントで19.4%がピロリがあったわけです。当初この24年度、予算50万円盛りました。で、決算額は15万5,000円。これは内容的に自己負担が1,000円あります。で、市の助成が5,000円。そういうくくりでやって初年度そういう予算・決算でありました。25年度、30歳から49歳を今度は対象年齢に上げました。その結果、受診者数が48名、陽性反応が18名、パーセントで33.3%、3分の1がピロリがあったということになりました。このときは年齢を限定して30から49という年齢の中で、予算額が25万円、決算額が24万円。26年度も同じようなことでやります。このときも33%の方が陽性反応が出てると。

その後集団健診で行う方向に変更いたしまして、18歳から39歳を対象にされておりました。これで9月現在で156人の方が受けておりまして、その中の24%ぐらいの方が陽性反応が出てると。その中でも若年層の18歳からもピロリが検出されたという、そういう報告になっているということです。これ、集団検診まで拡大してやって、予算額が195万円という予算になっております。ですから、年齢層の限定をかけて自己負担がありで、せいぜい50万円とか、もう少しかかったとしても、その対象年齢によっては財政への負担もそんなに大きくなくてもスタート段階ではできるのではないかなというふうな、今回研修をしてみて感じた訳ですけれども、福祉部長さん、どういう感想をお持ちでしょうか。

◎議長（村上啓二） 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（村元英美） 参考にさせていただきます。

◎議長（村上啓二） 10番工藤俊広議員。

◎10番（工藤俊広） 御心中お察しいたしたいというふうに思います。

本当に大変参考になることでもありますし、やはり30%台の人間に40歳までの間におおむねピロリがいるということが証明されているという、これは事実としてあるわけでありまして。当市においてもこのデータは、全てそれが反映されるかというところではないかもしれませんが、おおむねこれは裏づけがあるというふうに思います。そして諸問題にかかわる病気の原因の大きな一つでもありますがん対策にもつながっていくでありましょうし、黒石の人口減少の一因ともなる病気によって亡くなる方の抑制にもつながると。私はこのピロリの検査に対する公費助成は大きな力になっていけるのではないかなという、そういう観測を持ってますし、ぜひ取り入れて行っていただきたいというそういう思いを持っております。

もし市長さんがお答えできるのであれば、前向きな御答弁をいただきたいと思っておりますけれどもいかがでしょうか。

◎議長（村上啓二） 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（村元英美） 大変貴重な御意見、視察の結果等、後でお知らせいただければ幸いです。いろいろ工夫をしながら検討はしております。真摯にお答えしております。検討しておりますので、それでわかってください。以上です。

◎議長（村上啓二） 10番工藤俊広議員。

◎10番（工藤俊広） 吉報を待っております。

それでは地方創生に入りたいと思います。

まず課題の認識について、やはり認識はみんな一緒だと思えました。財政、人口減少、若者の雇用、観光の振興をどう図っていくのか、小さくくりでいうとこういうことだのがなっているふうに思いましたし、私もそう思っています。

やはり財政の部分は大きく自主財源が歳入がふえていくという見込みは立たないわけであります。しかし、削減も給料を削減し、事業を削除、軽減、いろんな縮小しながらやったり、民間委託したり指定管理したりっていう、これにもそろそろ限界があるのでないかなっていうふうに思っているところであります。とにかく一生懸命やってるっていうその成果、現状に今あると。財政再建団体に落ちるかもしれないっていうところから、ようやく今ここまで来てるっていうことに対して、これは市民の皆さんとの総合力でここまで来たんだっていう、そういう思いはしております。その中で、若干力が足りないのではないのかなっていう課題が、やはりこの若者対策のところがちよっと薄いっていう、そういう感想をちよっと持っているんですけども、この辺どういう認識でしょうか。

◎議長（村上啓二） 企画財政部長。

◎企画財政部長（後藤善弘） さまざまな観点から御提言までいただいて財政を心配していただいているという、大変感謝を申し上げます。本当に厳しい状況です。

今年度2億3,000万円交付税減じられました。そのほかのさまざまな税収も伸びないとかですね、逆に落ち込んでいってる傾向がございます。そういう中で、さまざま御提言いただきますけども、やりたくてもできない状況というのは、財政としてははっきり申し上げておきたいと思っております。まずその点は御理解いただきたいというふうに思っておりました。

地方創生に関しましてですね、市長初め市の職員みんなですね、これからどういう具体策が打ち出されてくるのか、非常に強い関心を持ってございます。このままでいきますと、どんどん人口が減るだけでなくですね、さまざまな影響、地域への影響とかいろんな、これまでなんとかやってこれたギリギリの線のものが一線を越えたときに、大きい打撃が出てくるという

ふうにございます。そういうものに対する、人口が減っても対処していくということの対応もまた逆に考えていく必要が、現実的に捉えていく必要があると思いますが、もう一方で先ほどお答え申し上げましたように、地方創生の中で既に打ち出されてきているものもあるわけでございまして、前回の議会のところでも一般質問で議員とやりとりさせていただいた部分ございます。

新しく策を打ち出すためには財源がどうしても伴うという、そういう課題があります。ただ、国の施策をうまく使って、どう黒石にプラスに転換していくような施策を、プラスアルファの工夫もしながらしていくかという、そこが非常に頭を求められているという時代になっているというふうにございますので、先ほども申し上げましたように、これは1部署でやっていくようなレベルの問題ではございません。ですので、プロジェクトチーム、それから全庁的な部長、課長、他の若い職員、女性職員もみんな含めてですね、それから議員の皆さん方のアイデア、もちろん市民の皆さんからもですねさまざまな御提言、御意見をいただきながら、総合的に協働の、市民と行政、議会の協働の中で物事を進めていきたいという強い気持ちでおります。ですので、その中で議員がおっしゃられた財政環境も整えていく必要ございます。その道が一番厳しいわけですが、一つ一つ課題解決に向けてですね、これからも進めてまいりたいという気持ちでございます。以上です。

◎議長（村上啓二） 10番工藤俊広議員。

◎10番（工藤俊広） 財政部長ありがとうございます。

全く認識としては一緒でありますし、この問題意識を持った中で次に行きますけども、体制の強化、先ほど発表がありましたプロジェクトチームと庁舎の中横断した、そういった検討をする組織をつくっていくと、できている部分もあるっていうそういうお話しでありました。本当にここに市の命運をかけるくらいの、大きな、今回は地方創生っていうまだ中身が全部出てるわけではありませんが、ここに国もシフトして地方の再生が国の再生だっていうところの思いで今進んでいるわけですので、この体制の強化の部分で、確かに有能な市役所の皆さんの知恵の絞り合い、それから議員のアイデアの出し合い、それも重要ではありますけれども、私はここに黒石の市の命運をかけるくらいの思いをもっと傾注するべきだっていう観点からですね、このまちおこし、さまざまな自主財源を生むいろんなことを含めた問題点をクリアするに当たって、専門家のアドバイザー的なもの、そういった情報を持っている人間、そういうものを踏襲できる人間を活用を図っていくことも一つ大事ではないのかなっていうふう思うわけですが、いかがでしょうか。

◎議長（村上啓二） 市長。

◎市長（高樋憲） 先ほど職員の方々との意見交換の話もさせていただきましたけども、その時

もですね、私は今回の地方創生とはまた別に、5年後の黒石の税収を上げていくためにみんなして同じベクトルにならなければいけないということでの意見交換もしたわけでありまして。

そういう状況で、今回まずは14名の方に委任しまして今回プロジェクトチームをつくれ、ここで来年度に向けてどういうふうなことをすればいいのかを一つ整理していくと。その上でですね、来年、今度それをどう実行性に持っていくための対策のチームをどうつくっていくのかという部分につながっていくわけでありまして、そこでですね、まずは私ども市役所職員が中心となって黒石の諸課題っていうものを整理した上でですね、その上で専門的な知識が必要になるのであれば、今は国のほうにでもですね、専門的な知識を持ってる方を派遣していただきたいっていう要請活動もできるわけでありまして、そういうあらゆる分野でのですね、知識を活用した5年後の黒石のあり方っていうものをしっかりつくり上げるべく、これから取り組んでいきたいといふふうに考えております。

◎議長（村上啓二） 10番工藤俊広議員。

◎10番（工藤俊広） ありがとうございます。わかりました。

とにかく問題点を洗い出して整理をして、それをどう克服していくかっていうことを、専門分野の知識も、また国のそういう力も活用しながら取り組み進めていくっていう、そういう体制を図っていくということで理解いたしました。

では、市長との懇談についてでありますけれども、全25回を目指して今24回と。残り1回ということでもありますけれども、大変、相互理解もして市長の思いも同じベクトルの方向に向かっているという、凄いいい取り組みであるというふうに私も思います。

ただ、新しい職員、まだ場慣れしていない職員の皆さんの声の一つに、市長を前にして緊張して思いのたけを喋るっていうのはなかなか厳しいものもあるというふうな声も聞かれますけれども、これは仕方のないことかもしれませんが、この声にならない声を聞く方法とかが考えられないものでしょうかね。

◎議長（村上啓二） 市長。

◎市長（高樋憲） 今回、それこそ24回やらせていただきましてですね、今、工藤議員のお話しにありましたように、ちょっと緊張して率直な意見を話せないんじゃないかというふうな心配もしたわけでありまして、しかし、過去にこういうことが今まで行われたのか私はよくわかりませんが、今回こういう全職員との意見交換をさせていただきまして、それなりに職員の方々もこういう機会を望んでおったような感じを私は受け止めさせていただきました。そういう部分ではですね、結構率直な意見出ております。今の体制の中でですね、窓口業務等における本業がちょっとおろそかになるとかですね、またはこれから若い人たちが黒石にいろいろな面で夢を持って取り組もうとする際においても今の現状ではなかなかそこが、いろいろなも

のが足かせになっているものがあるとか、そういう部分でですね、今の人事体制も今のままでいいのかとかですね、あるいは今現在行われている市の条例等々の中においても今の時代にもう合わなくなってしまうのもあるのではないのかとかですね、あるいは我々市職員としてこれからどういうふうな気持ちで進めばいいんだとか、そういう普段自分たちで考えて、誰かに聞いてみたかったっていう部分のですね、意見も私は出たような感じがいたしてました。

また、私のほうからもですね職員の方々に、まずは我々が市をみんなで理解しなければいけないんだと、そういう部分においては市のいろんなイベントにもどんどん参加していこうとかですね、あるいは、これから市民に対しての心がけとして、やはり我々は市民の笑顔を一つの喜びとして歩んでいかなければいけないんだと、そういう認識を共有していただくとかですね、そういう面では私は今回の意見交換は大変良かったと思っておりますし、また、今回のこれが25回で一応一通り終わるわけではなく、今後も機会を見つけて職員の方々との意見交換っていうのは取り入れて、そして現場の声っていうものを重視した市政運営っていうものに私自身も努めていかなければいけないっていうふうに考えているところであります。

◎議長（村上啓二） 10番工藤俊広議員。

◎10番（工藤俊広） ありがとうございます。本当に全員が一体となって、この黒石を良くするというベクトルに向かって進んでいきたいということで、市長も1人しかいないわけでありますので、体のことを本当に心配します。いろんなことをやらなければいけませんけども、思いの共有から始まっていくというふうに私も思いますので、機会をつくっていただいて今後もまた懇談を続けていただければなというふうに思います。

最後に、今後についてということであります。あれもやりたいこれもやりたい、だけれどもつまるところ最後は財源がないっていうのが正直な今のさまざまなことにかかわっていくところの、つまるところになっていくのかなっていう、そういうところを思いとして持っているわけでありますけれども、その中で少しでも何かできるものがないのかなっていう、そのヒントになったのが先ほど紹介したような事業を起こした方たちの話でありました。

まず6次化に向けての鳥巢先生のお話は、全議員聞いてすごく元気になりましたし、「黒石でもこれできるんでねべが」「あれできるんでねべが」っていうにぎわいの話が出てくるくらいのインパクトのあった話でありました。一般質問の中でも話ししましたけども、材料はいいもの一杯あるよと。だけれどもそれをトータルでコーディネートする人間が日本全国に今すごく不足しているんだと、それを農協さんが役割としてやればいいのかという、そうではないと。生産者と加工業者、販売流通、そこに平等に利益を分配するトータルコーディネートをする人材がないんだというお話しでありました。それを誰がどう育てるのかっていうときに、ここの行政が手助けるもんだんだが、それとも民間が民間でやればいいのかっていう話しな

のか、ここの橋渡し役として行政が何かしらの場、つくり上げたものを見せていく必要があると思うんですけど、いかがでしょうか。

◎議長（村上啓二） 市長。

◎市長（高樋憲） 今の地方創生もそうなんですけど、私は行政が1番やらなければいけない部分っていうのは出口戦略なんだと思っております。ですから、今回の地方創生にしましても、私は国がですね、ただ入口を今までは整備するという認識であったのを、180度意識転換してもらって、出口戦略を国が率先してやるんだと。同時に、じゃあ黒石はどうなのかって考えますと、我々行政もですねその出口戦略っていうものを重視した政策を進めていってならばですね自然と入口は民間がつくっていくんだというふうに私は認識してるんですね。ですんで、いろいろ6次産業化等々にありましても、特に農業はですね販売戦略どうしていくのか、そこをしっかりと我々も検討して、そのためにどうコーディネートすればいいのかっていうことを常に念頭においてですね、これから取り組んで行きたいというふうに考えております。

◎議長（村上啓二） 10番工藤俊広議員。

◎10番（工藤俊広） ありがとうございます。

最後に、提言になるのか私の思いだけになるのかちょっとあれですが。

青森公立大学の天野巡一教授のお話しですけれども、最終的に地方自治法が最高の法律だと。もしも、これをやりたいけれどもその法の壁があると、自治法の改正はできないかもしれないけれども、自分たちの中でクリアできる条例っていうものを改正してでも進めるんだぐらいの思いで地方創生に向かっていければっていうニュアンスの感じの話がありました。

さっき学校の食堂の話もありましたけれども、これは私懇親会の席で先生に聞いたわけですが。黒石は今学校の統廃合あって、でも給食も同時にスタートできるかどうか微妙な状況だと、そういった中でPTA、父兄の皆さんは統廃合して給食もねぐなるんだたらなんも意味ねえという、そういう意見が現実、正直なところだと、なんかできる方法ないものでしょうかというふうなお話をした際に、横須賀で空き教室を利用して給食の活動が現実に来たというお話を聞きました。このときの文科省に対しての作文を書く中で大事なキーワードがあると。空き教室という言葉を使えばだめだんだと。ゆとりスペースというそういう表現に、それでこれが許可出たという、こういうこともあるのかなというそういう感想を持ったぐらいのことがあるわけです。ですから要は自分たちの自治体にとってこれは必要だんだと。黒石にとって給食はどうしても必要だんだと。だからこういうこととして、こういう壁があるんだたらそれをどう乗り越えていくのかっていう、そういう突き抜けた思いに立たないと、こうだからできない、ああだからできないっていうと、やはりできないんですよっていう、そういうお話しでありましたので、ちょっとこれからの戦略の中で参考にさせていただければという思いを述べまし

て、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

◎議長（村上啓二） 提言とさせていただきます。

以上で、10番工藤俊広議員の一般質問を終わります。

◎議長（村上啓二） 本日はこれにて散会いたします。

午後 2時40分 散 会

地方自治法第123条第2項の規定により、ここに署名する。

平成26年12月4日

黒石市議会議長 村上啓二

黒石市議会議員 後藤秀憲

黒石市議会議員 中田博文